



ひろおひ

1984 No. 7



播磨蝶友会

兵庫県におけるヒメアカタテハについて

近藤伸一

はじめに

ヒメアカタテハの生態は、成虫越冬種とされて来たが、白水隆氏によると、(故)林慶氏(1951)が東京付近で本種が幼虫越冬することに最初に気付かれ、その後南西日本を中心に各地で幼虫越冬の報告が出されて来たとのことである。松井安俊、松井英子両氏は、(1981~1982)千葉県を中心に、南関東の越冬幼虫の観察を通じて、本種は非休眠越冬型であると考えられた。また、越冬の不可能な地方にも多数生息する事実から、本種は越冬地から非越冬地への拡散、移動を毎年繰り返していると推定、現在標式による移動調査をされている。またこの推定をうらずけるように、蛭川、折竹両氏(1982)は長野県下で厳冬期以前に幼虫が死亡すること、西山隆氏(1983)も栃木県下で同様の事実を確認されている。

兵庫県神戸市西区岩岡町の自宅付近において、冬期における成虫、蛹、幼虫を観察する機会にめぐまれ、また同好の方々から県内各地の成虫、幼虫の採集目撃記録をお教えいただいたので、現在の時点における県下の発生状況等についてまとめてみた。

I 兵庫県の冬期の気温について

(イ)平均気温(1月~3月)

兵庫県の中央部は、中国山脈の東端に位置するため、1,000m以上の山が連なり、積雪量も多く、気温も低い。南部瀬戸内海側は温暖であるが、西に行くほど気温は低くなる。北部日本海側は、積雪地帯であるが、対馬海流のため気温は比較的温暖である。

(図1~図3は1月~3月の平年の月平均気温を等温線で表わしたものの。表1は、各地の平均気温)

(ロ)最低気温の変動(1月~2月)

県下を4区域に大別し、東西南北の各区域の代表的な都市の気温について年ごとの変動を調査した。神戸(東部)姫路(西部)洲本(南部)豊岡(北部)の月平均最低気温の(1973~1983)の間の変動をみると、1月では(図4)最も暖い年と寒い年の差は、神戸で3.7℃(1979↔1981)姫路で3.6℃(1975↔1981)洲本で3.8℃(1979↔1981)豊岡では3.4℃(1973↔1981)で各地区

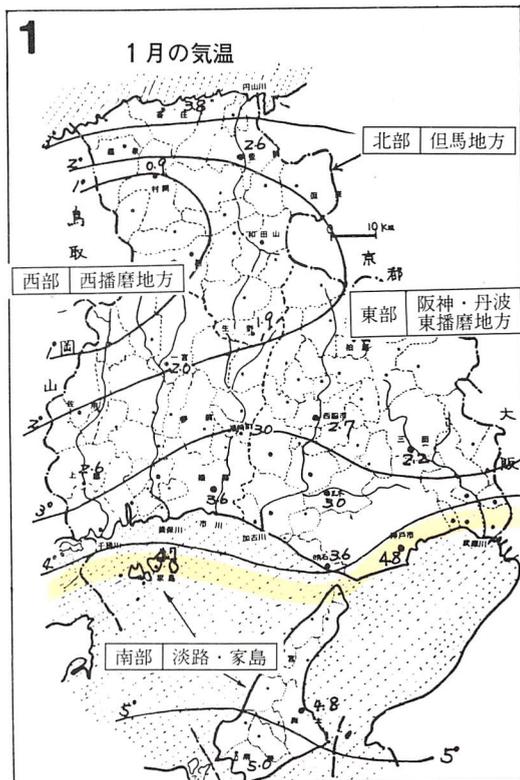
とも3~4℃の差がある。

1979年1月の洲本の3.6℃が一番温暖であり、1981年の姫路で-2.7℃が一番寒い記録である。

2月(図5)では、神戸での年別の最低平均気温差が、4.6℃(1979↔1977)姫路で4.5℃(1979↔1977)洲本で3.8℃(1979↔1977)豊岡で5.1℃(1979↔1977)であり、年による温度差は大きい。温暖な年は1979年で神戸の4.3℃、寒い年は1977年で豊岡の-3.4℃が最低である。

表1. 平年における平均気温

	1月			2月		
	平均	最高	最低	平均	最高	最低
神戸	4.8	8.5	1.5	5.2	9.2	1.7
姫路	3.6	8.7	-0.8	4.1	9.1	-0.5
洲本	4.8	8.2	2.0	5.0	8.9	1.9
豊岡	2.6	7.0	-0.7	2.8	7.3	-0.7



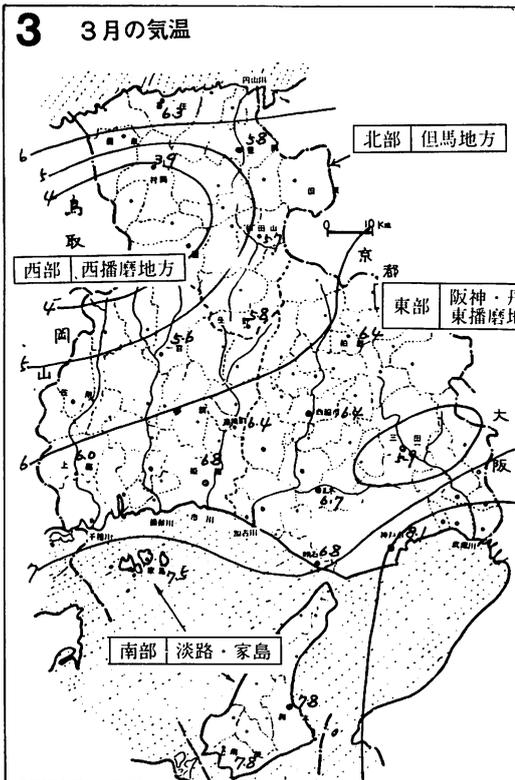
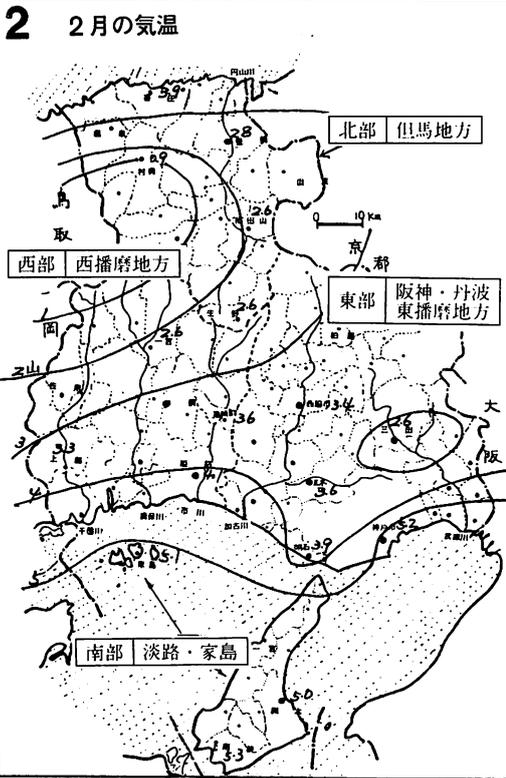


図4. 1月の平均最低気温の変動(1973~1983)

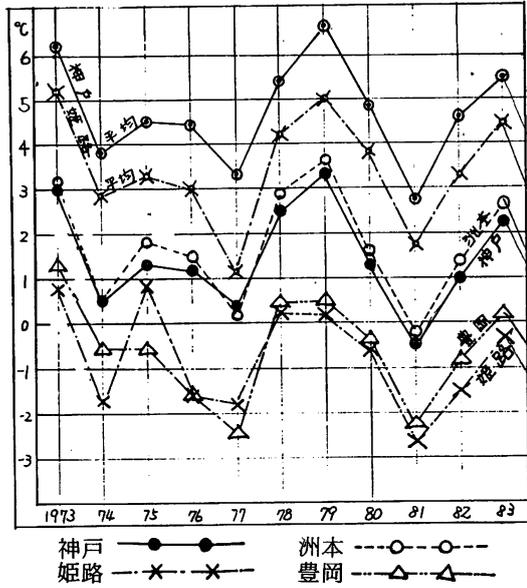
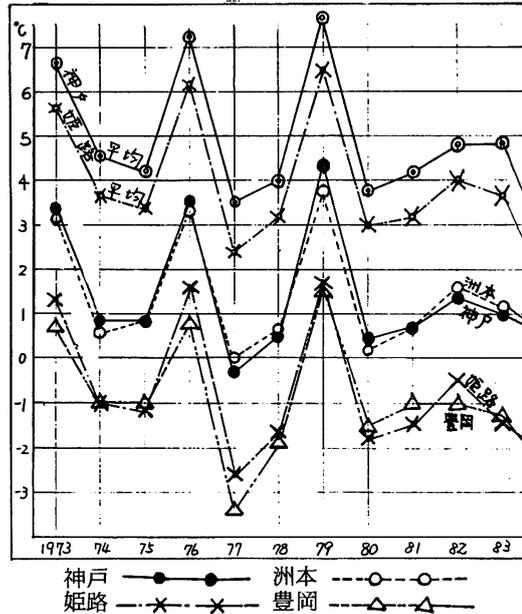


図5. 2月の平均最低気温の変動(1973~1983)



以上の表・図は、神戸海洋气象台及び兵庫県気象月報にて調査作成
 参考に神戸・姫路における平均気温の変動についても図示した。

II ヒメアカタテハの冬期の観察結果(1982~1984)

神戸市西区岩岡町において、成虫、蛹、幼虫を観察した。幼虫の一部は冬を越して羽化した。

(1) 成虫の観察例 (1983)

1983. 1. 15 AM11:00 1 ex 目撃

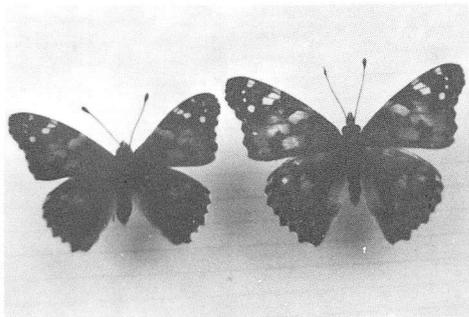
当日は、冬型気圧配置が弱まって来ており、大変あたたかく、地上高3mぐらいの高さを活発に飛んでいた。

(神戸海洋気象台……曇時々晴、最高気温8.5℃最低気温2.9℃ 平均気温5.0℃)

1983. 1. 20 AM11:00 1 ♂

この日は、晴れていたが、風が強く、建物のコンクリート面に近接した日のあたる地面にへばりつくように羽を広げていた。不活発で素手にて採集出来た。この日は羽化して間もない個体で翅は完全に伸びきらず口吻も割れたままの黒化した小型(前翅長23~26mm)のものであった。家に持ち帰ったが、2日後に死亡した。

(神戸海洋気象台……最高気温5.1℃ 最低気温-0.9℃ 平均気温1.8℃ 採取地点で気温を測定すると直射日光のもとで6.5℃であった。



左 1月20日採集した個体 ♂
右 通常の個体(8月採集) ♀

(2) 蛹の観察例 (1982~1983)

1982年11月26日から1983年12月15日にかけて、次表のとおり、10例の蛹と、数例の羽化あとの蛹を観察した。地上高30cm~300cmの日のよくあたる東~南の面のコンクリート壁その他の物体に蛹化しており、食草

と蛹化位置との距離は、一番離れたもので8mあった。

1983年2月までの蛹は、死亡した個体も含めて3月21日までですべて消失し、羽化の確認は出来なかった。鳥又は他の動物のエサになったものとおもわれる。1983年12月の蛹は1984年1月末羽化直前の状態で死亡しているのを確認した。

表2. ヒメアカタテハの蛹の観察例

蛹の 発見日	蛹化場所				その後の状況
	地上高	方向	場所	食草との 距離	
1982 11.26	50cm	不明	プラスチック チリパコ	6m	羽化直前に死亡
12.8	60		枯草	0	羽化せず
12.18	80	南	コンクリート 壁	8	1月1日消失確認(羽化あとなし) (鳥又は他の動物の物理的原因)
1983 1.15	60	南東	エノキの幹	4	2月18日消失確認(羽化あとなし)
1.80	80	南東	樫木 鉢	5	2月11日死亡確認
2.5	50	南	コンクリート 壁	2	2月5日発見時には死亡していた
2.5	50	南	コンクリート 壁	2	8月21日消失確認(羽化あとなし)
2.6	80	南	コンクリート 壁	1.5	8月21日消失確認(羽化あとなし)
12.15	800	東南東	屋根の軒下	2	1984.1.羽化直前に死亡
12.15	800	東南東	◇	2	◇



1983. 1. 30



1983. 1. 15

(3) 幼虫の観察例と飼育結果 (1983)

1983年1月23日

緑の残ったヨモギ3株から12匹の幼虫を確認した。巢は(図6)のごとく、柔らかい葉を1枚又は、数枚つづり、地上高20cm~30cmの位置にあった。葉を広げると、フンや脱皮殻があり、令数はまちまちで、体長7mm~16mmの大きさで、このうちの5匹を持ち帰り、ヨモギを植えた鉢をネットで覆い、屋外で飼育した。この中の一匹は枯れた葉の巢中にいたためか、終令ではあったが、体長は12mmと大変小さく、2月11日死亡した。

2月4日 17:00

庭のブロック上にいる本種の幼虫を発見した。この場所は、食草から4mほど離れており、なぜこの場所に居たのか不明である。食草を与えると葉の裏に移動して、少し摂食した後、体をC型にして静止する。(当日は晴、最高気温9.5℃、最低0.8℃、平均5.6℃)

2月11日

先に観察した(1月23日)地点の幼虫を再調査。新しく造った巢へ移動している幼虫があった。

3月6日

前記の場所に近接して別のヨモギの群落で、幼虫の調査を行なった。巢は地上高10cm~30cmの位置に造られており、1本のヨモギに造られた巢の数は、1個から最高6個で、全部で18本のヨモギから31個の巢を数えることが出来た。その内訳は、1本のヨモギに巢の数1個...11例、2個...4例...、3個...2例、6個...1例の状況で、そこから確認した幼虫の数は、終令2匹中令3匹と死亡していた中令幼虫3匹の計8匹であった。このうち5匹も持ち帰り、飼育した。

幼虫は付近一帯を調べたが、確認出来たのは、これがすべてである。どの場所も、日光のよくあたる所であった。

なお第二化の幼虫については次の通りであった。

1983年5月14日

冬期観察場所から30m東に離れた位置で2令幼虫1匹確認、高さ40cmのヨモギの頂部に新芽を数枚つづった巢の中にいた。約6cm下部に巢のあとがあった。

5月22日

冬期観察場所から東に約300m離れた畑のヨモギから2令幼虫1匹確認。

飼育結果を表にあらわしたのが次表(3)である。幼虫は寒さに強く、冬期にも成長を続け、3月末に蛹化し4月中旬に羽化するものが多かった。一番早く羽化したNo3は、2月22日蛹化し、3月26日羽化したものでタンポポの花からさかんに吸蜜し、4月10日放蝶するまで飼育した。

表3 ヒメアカタテハの幼虫の飼育結果

採集日時	1月	2月	3月	4月	5月	6月
No.1 採集 1月30日 体長 7mm 腹中 1.1mm		X				
No.2 体長 23mm			●	▲		
No.3 体長 15mm		●	●			
No.4 体長 16mm		●	X			
No.5 体長 12mm (終令)		X				
No.6			X			
No.7 終令			●	▲		
No.8 終令			●	▲		
No.9 終令			●	▲		
No.10 3令~4令			●	▲		
No.11 3令~4令			●	▲		
No.12 3令~4令				●	▲	
No.13 3令~4令					●	▲

採集 -- 死亡 X 蛹化 ● 羽化 ▲

(4) 幼虫の観察例 (1984)

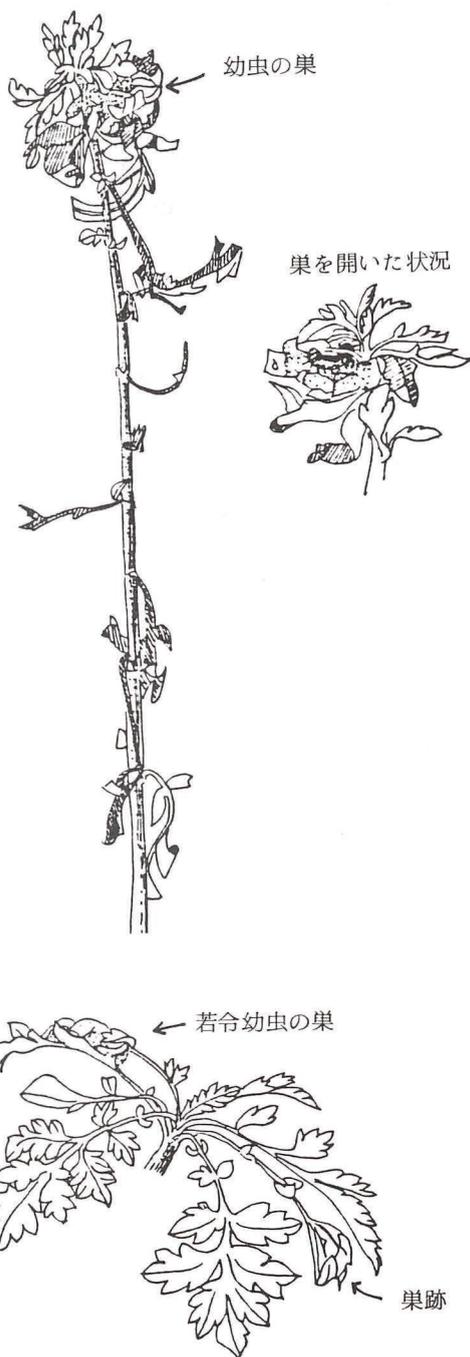
1984年1月8日

昨年と近接した場所で、やはり日光のよくあたる位置の高さ約10cmのヨモギの新芽にて10幼虫確認一若令(体長6~8mm)。今年は例年になく寒さが厳しく、1月30日の大雪でこの場所も雪の下となり、その後約1週間は雪が残っていた。2月11日同場所を再び調べたがヨモギの新芽の多くが茶色に変色しており、巢の中で幼虫の死骸を3匹確認した。残りの巢からは、生きた幼虫、死骸ともに確認することができなかった。

1984年2月12日

昨年1月23日幼虫を確認した場所のヨモギは秋に刈られてしまい、幼虫はいないものと思っていたが、新芽を調べると若令(6mm)の幼虫が2匹いた。また別の場所でも中令幼虫1匹を確認した。今年は寒さが厳しく、数日間も雪に埋もれていたにもかかわらず、一部は生存していることが分った。

図6. ヨモギに造られたヒメアカタテハの越冬巣
(1983. 3. 6兵庫県神戸市西区岩岡町)



Ⅲ. 兵庫県下の採集目撃記録

過去兵庫県内での採集及び目撃記録を記すと次の通りである。場所及び時期は異なるが、周年発生の目安となる。

(1) 成虫

< 1月 >

1980-I-3	1 ♀ 1 ex	出石郡但東町	木下賢司
1983-I-15	1 ex 目撃	神戸市西区岩岡町	近藤阿佐子
1983-I-20	1 ♂	神戸市西区岩岡町	近藤伸一

< 3月 >

1947-III-31	1 ex	洲本市安乎町	堀田 久
-------------	------	--------	------

< 4月 >

1983-IV-4	1 ex 目撃	神戸市西区光岡町	近藤阿佐子
1973-IV-6	1 ♀	神戸市西区神出町	平尾栄治
1959-IV-10	1 ex	神戸市西区玉津町	尾崎 勇
1960-IV-16	1 ♂	神戸市西区玉津町	岩村 巖
1963-IV-19	1 ex	豊岡市来日岳	木下賢司(5)
1959-IV-26	2 exs	明石市藤江	尾崎 勇
1976-IV-27	1 ♂	豊岡市三開山	木下賢司

< 5月 >

1978-V-8	1 ex	姫路市飾磨区	相坂耕作
1980-V-11	1 ex	津名郡東浦町	広畑政己
1978-V-13	1 ♀	揖保郡御津町室津	入江照夫
1964-V-31	1 ex	多可郡加美町	尾崎 勇

< 6月 >

1978-VI-1	1 ♂ 1 ♀	三木市	小倉滋	高橋久夫(4)
1961-VI-4	1 ex	明石市松蔭新田	尾崎 勇	
1981-VI-4	1 ex	佐用郡佐用町青木	高島 昭	
1983-VI-4	1 ex 目撃	神戸市西区岩岡町	近藤阿佐子	
1983-VI-5	1 ex 目撃	神戸市西区岩岡町	近藤伸一	
1980-VI-7	2 exs	神戸市西区神出町	高島 昭	
1981-VI-7	1 ex	宍粟郡波賀町赤西	花岡 正	
1982-VI-7	1 ex	加古川市志方町	高嶋 明	
1953-VI-10	1 ex	神戸市東灘区御影町	吉坂道雄(20)	
1979-VI-10	1 ♂	竜野市竜野公園	唐土洋一	
1966-VI-11	1 ex	城崎郡日高町金山	木下賢司(8)	
1980-VI-12	1 ♂	洲本市宇山	林 俊雅	
1977-VI-13	1 ♂	洲本市先山	(青雲中学)滝中	
1959-VI-14	1 ex	明石市松蔭新田	尾崎 勇	
1981-VI-14	1 ex	相生市小河	花岡 正	
1978-VI-15	1 ♂ 目撃	豊岡市三開山	木下賢司	
1980-VI-15	1 ♀ 多数	洲本市池ノ内	林 俊雅(2)	
1978-VI-17	1 ♂	城崎郡日高町岩中	木下賢司	

1972-VI-18	3 ㊦	相生市川原町	米村和繁	1980-VIII-2	1 ex	川西市大和	仲田元亮(9)
1978-VI-18	1 ex	相生市大谷町	花岡 正	1974-VIII-3	1 ㊦	洲本市先山	堀田 久
1978-VI-18	1 ㊦	小野市青野ヶ原	森下泰治	1983-VIII-3	1 ㊦	神戸市北区(六甲山)	近藤伸一
1983-VI-19	1 ex 目撃	飾磨郡夢前町山之内	木村三郎	1978-VIII-6	1 ㊦	三原郡三原町八木	近藤伸一
1983-VI-20	1 ex	飾磨郡夢前町山之内	木村三郎	1982-VIII-8	1 ㊦	養父郡関宮町福定	広畑政己
1981-VI-23	1 ex	宍粟郡安富町三坂	木村三郎	1982-VIII-13	3 exs	宍粟郡波賀町赤西	高嶋 明
1981-VI-24	1 ex	相生市川原町	八木 弘	1971-VIII-14	2 ㊦ 1 ♀	津名郡一宮町群家	広畑政己
1979-VI-26	1 ㊦	東床ノ尾山	木下賢司	1970-VIII-16	1 ♀	洲本市安乎町	堀田 久
1963-VI-27	1 ㊦	赤穂市野中	岩村 巖	1978-VIII-17	1 ex	養父郡関宮町杉ヶ沢	木村三郎
1981-VI-27	1 ㊦	相生市佐方	唐土洋一	1966-VIII-19	2 exs	明石市藤江	尾崎 勇
1975-VI-29	1 ex	養父郡関宮町杉ヶ沢	黒田 収	1967-VIII-19	1 ㊦	赤穂市目坂	粉引敏活
1979-VI-30	1 ex	佐用郡上月町上秋里	高島 昭	1967-VIII-20	1 ㊦	赤穂郡上郡町大山寺	唐土洋一
1979-VI-30	1 ex	佐用郡上月町西新宿	高島 昭	1973-VIII-21	1 ex	飾磨郡家島町坊勢	上田尚志(2)

< 7 月 >

1979-VII-1	1 ex	姫路市御立北山	苦木隆幸(10)	1978-VIII-25	1 ㊦ 1 ♀	神崎郡福崎町新町	石井為久
1979-VII-1	1 ㊦	姫路市御立北山	広畑政己	1978-VIII-26	1 ㊦	相生市川原町	米村和繁
1975-VII-2	1 ex	神崎郡大河内町砥峰	石井為久	1973-VIII-26	1 ㊦	赤穂市加里屋駅	粉引敏活
1972-VII-3	1 ㊦	相生市川原町	米村和繁	1976-VIII-30	1 ex	飾磨郡夢前町山富	黒田 収
1977-VII-3	1 ㊦	相生市川原町	米村和繁	1978-VIII-30	3 ㊦ 1 ♀	豊岡市加陽	木下賢司
1983-VII-3	2 ♀	神戸市西区岩岡町	近藤伸一	1979-VIII-30	1 ex 目撃多数	豊岡市中ノ郷	木下賢司
1981-VII-4	1 ex	相生市大谷町	八木 弘				
1981-VII-4	1 ex	美方郡美方町鍛冶屋	島田真輔(6)				
1983-VII-4	1 ♀ 目撃	飾磨郡夢前町新庄	木村三郎				
1983-VII-5	1 ex 目撃	飾磨郡夢前町四辺	木村三郎				
1932-VII-12	1 ex	小野市三和町	山本広一(20)				
1978-VII-13	1 ex	赤穂市坂越	八木 弘				
1973-VII-14	1 ex	養父郡大屋町横行	尾崎 勇				
1978-VII-17	2 exs	赤穂市坂越	八木 弘				
1962-VII-18	1 ♀	赤穂市小山	本田 岩				
1983-VII-18	1 ex	加西市	吉田 豊				
1962-VII-20	1 ex	明石市大久保町	平尾栄治				
1978-VII-20	5 ㊦	相生市垣内	入江照夫				
1978-VII-20	2 exs	赤穂市坂越	八木弘				
1971-VII-21	1 ex	三原郡南淡町灘	堀田 久				
1978-VII-26	1 ex	赤松市坂越	八木 弘				
1978-VII-27	1 ex	赤穂市坂越	八木 弘				
1980-VII-27	1 ♀	三原郡西淡町阿那賀	平尾栄治				
1982-VII-28	1 ㊦ 2 ♀	揖保郡新宮町	小坂文之				
1977-VII-28	1 ex	養父郡関宮町杉ヶ沢	吉田 豊				
1975-VII-31	2 exs	宍粟郡波賀町音水	八木 弘				

< 8 月 >

1969-VIII-1	2 exs	川西市笹部	富士正生(3)	1978-IX-2	1 ♀	相生市野瀬	入江照夫
1970-VIII-1	1 ㊦	洲本市安乎町	堀田 久	1983-IX-2	1 ex	加西市	吉田 豊
1973-VIII-1	1 ex	三原郡三原町諭鶴羽	堀田 久	1971-IX-3	1 ㊦	相生市矢野町	米村和繁
				1978-IX-3	1 ♀	相生市野瀬	入江照夫
				1967-IX-4	1 ♀	相生市川原町	米村和繁
				1980-IX-4	1 ex	加西市泉町	花岡 正
				1983-IX-4	1 ex	宍粟郡波賀町赤西	吉田 豊
				1978-IX-6	1 ㊦	豊岡市妙楽寺	木下賢司
				1981-IX-6	1 ex	美方郡温泉町	広畑政己
				1963-IX-7	1 ㊦	赤穂市野中	西垣憲治
				1977-IX-7	1 ex	洲本市下加茂	近藤伸一
				1979-IX-8	1 ex	竜野市	吉田 豊
				1960-IX-9	1 ㊦ 1 ♀	西宮市菊谷町	堀田 久
				1979-IX-9	1 ㊦	赤穂郡上郡町赤松	広畑政己
				1961-IX-10	2 exs	明石市新田	尾崎 勇
				1971-IX-10	1 ex	洲本市安乎町	堀田 久
				1978-IX-10	1 ♀	洲本市大野	近藤伸一
				1980-IX-13	1 ex	篠山町	森地重博(9)
				1971-IX-15	1 ㊦	相生市古池	米村和繁
				1973-IX-15	1 ㊦	赤穂市尾崎	粉引敏活
				1976-IX-15	1 ex	川西市笹部	仲田元亮(9)
				1977-IX-15	1 ㊦	神崎郡市川町上牛尾	広畑政己
				1978-IX-15	2 ㊦ 2 ♀	宍粟郡一宮町上野田	広畑政己

1967-IX-16	1 ex	川西市多田院	小坂利明(9)	1978-X-18	2 exs	赤穂市坂越	八木 弘
1983-IX-18	1 ♂2 ♀	神戸市北区干刈	浜田 静	1978-X-20	3 exs	赤穂市坂越	八木 弘
1978-IX-22	1 ♀	朝来郡生野町栴原	石井為久	1969-X-22	1 ♂	西宮市高松町	(甲陵中)山田
1981-IX-23	1 ex	相生市小河	花岡 正	1978-X-22	1 ex	西脇市津万	徳岡正己
1981-IX-23	1 ex	川西市笹部	勝屋 潤(9)	1982-X-22	3 exs	相生市三濃山	小坂文之
1959-IX-23	1 ex	西脇市八日町猪股涼	岡本 清(1)	1978-X-23	3 exs	赤穂市坂越	八木 弘
1980-IX-23	多数目撃	美方郡香住町	石井貞志	1978-X-25	1 ex	姫路市広畑区	木村三郎
1983-IX-23	1 ex目撃	養父郡関宮町鉢伏山	近藤伸一	1978-X-30	5 exs	赤穂市坂越	八木 弘
1978-IX-24	1 ♀	豊岡市妙楽寺	木下賢司	1982-X-31	3 ♂1 ♀	相生市矢野町	唐土洋一
1979-IX-24	1 ex	川西市大和	仲田元亮(9)				
1977-IX-28	1 ex	揖保郡御津町室津	入江照夫				
				<11月>			
				1983-XI-1	1 ex	相生市古池	佐々木薫
				1977-XI-3	1 ex	相生市古池	花岡 正
				1978-XI-3	1 ♂	加東郡社町	高嶋 明
				1983-XI-3	1 ♀	神戸市西区岩岡町	近藤伸一
				1983-XI-3	1 ex目撃	神戸市西区神出町	近藤伸一
				1983-XI-4	1 ex	西脇市板波	竹内俊行
				1983-XI-6	2 ♀	神戸市西区岩岡町	近藤伸一
				1978-XI-8	1 ♂	加東郡社町	高嶋 明
				1983-XI-9	1 ♂	氷上郡青垣町佐治	近藤伸一
				1969-XI-11	1 ex	姫路市	相坂耕作
				1972-XI-12	1 ex	加西市青野ヶ原	相坂耕作
				1977-XI-12	1 ex	洲本市下加茂	近藤伸一
				1983-XI-13	2 ♂4 ♀	神戸市西区岩岡町	近藤伸一
				1978-XI-15	1 ex	飾磨郡夢前町別車	木村三郎
				1983-XI-19	2 ♂4 ♀	神戸市西区岩岡町	近藤伸一
				1983-XI-20	5 ♂6 ♀	神戸市西区岩岡町	近藤伸一
				1983-XI-21	多数目撃	飾磨郡夢前町菅生潤	木村三郎
				1983-XI-22	1 ex	飾磨郡夢前町菅生潤	木村三郎
				1983-XI-23	2 ♂2 ♀	神戸市西区岩岡町	近藤伸一
				1983-XI-23	1 ex	飾磨郡夢前町菅生潤	木村三郎
				1972-XI-26	3 exs	加東郡社町三草	村上裕通
				1983-XI-27	1 ♀	神戸市西区岩岡町	近藤伸一
				<12月>			
				1976-XII-1	1 ex	姫路市増位山	黒田 収
				1983-XII-3	1 ex	神戸市西区岩岡町	近藤太郎
				1983-XII-7	1 ex	氷上郡市島町北奥	浅田 卓
				(2) 幼虫、卵			
				1984-I-8	10幼虫	(若令) ヨモギより	
						神戸市西区岩岡町	近藤伸一
				1983-I-23	12幼虫	(若令~終令) ヨモギより	
						神戸市西区岩岡町	近藤伸一
<10月>							
1977-X-1	1 ♀	三木市 小倉 滋	高橋久夫(4)				
1976-X-2	1 ♂	洲本市曲田山	堀田 久				
1978-X-2	1 ♂	豊岡市妙楽寺	木下賢司				
1978-X-2	1 ♂	神崎郡福崎町新町	石井為久				
1978-X-2	1 ♂	神崎郡福崎町板坂	石井為久				
1983-X-2	1 ♂	神戸市西区岩岡町	近藤伸一				
1983-X-2	1 ex目撃	姫路市打越	広畑政己				
1978-X-3	3 ♀	神崎郡福崎町板坂	石井為久				
1969-X-4	1 ♀	相生市川原町	米村和繁				
1978-X-4	1 ex	飾磨郡家島町本島	上田尚志(2)				
1981-X-4	1 ♀	西宮市高座町	平尾栄治				
1972-X-5	1 ex	川辺郡猪名川町木間生	桑原英夫(3)				
1982-X-初旬	1 ex	姫路市増位山	小坂文之				
1978-X-6	1 ♂	神崎郡福崎町西谷	石井為久				
1965-X-7	1 ex	明石市明石公園	尾崎 勇				
1977-X-7	1 ♂	相生市川原町	米村和繁				
1978-X-7	1 ex	赤穂市坂越	八木 弘				
1963-X-9	1 ♂	神戸市六甲山	三木 進(19)				
1981-X-9	1 ex	西脇市	吉田 豊				
1972-X-10	1 ♂	赤穂市加里屋	岩村 巖				
1980-X-10	2 ♂	西宮市中須佐町	平尾栄治				
1981-X-10	1 ex	川西市笹部	仲田元亮(9)				
1982-X-10	2 ♂	相生市矢野町	唐土洋一				
1978-X-11	2 exs	赤穂市坂越	八木 弘				
1981-X-11	1 ex	川西市笹部	仲田元亮(9)				
1960-X-12	1 ♂3 ♀	神戸市西区雌岡山	岩村 巖				
1969-X-14	1 ♂	西宮市甲風園	堀田 久				
1962-X-15	1 ex	明石市大久保町	平尾栄治				
1978-X-16	1 ex	赤穂市坂越	八木 弘				
1978-X-16	1 ex	西脇市津万	徳岡正己				
1983-X-16	1 ex	赤穂郡上郡町柏野	近藤伸一				
1978-X-17	1 ex	赤穂市坂越	八木 弘				
1978-X-17	1 ex	西脇市板波町	竹内俊行				

- 1983-II-4 1 幼虫 (中令) 神戸市西区岩岡町 近藤伸一
- 1984-II-12 3 幼虫 (若令~中令) ヨモギより 神戸市西区岩岡町 近藤伸一
- 1983-III-6 6 幼虫 (中令~終令) ヨモギより 神戸市西区岩岡町 近藤伸一
- 1983-V-14 1 幼虫 (若令) VI 9 羽化 ヨモギより 神戸市西区岩岡町 近藤伸一
- 1983-V-22 1 幼虫 (若令) VI 12 羽化 ヨモギより 神戸市西区岩岡町 近藤伸一
- 1979 VI 上旬 2 幼虫 (終令) VI 17~18 羽化 ヨモギより 西脇市津万 徳岡正己
- 1983-VII-3 2 幼虫 4 卵 (若令) ヨモギより 神戸市西区岩岡町 近藤伸一
- 1979-VII 上旬 多数幼虫 VII 17~23 羽化 ヨモギより 西脇市高松 竹内俊行
- 1983-VII-4 2 卵 ヨモギより 飾磨郡夢前町新庄 木村三郎
- 1983-IX-18 10 幼虫 5 卵 (若令) ヨモギより 神戸市北区道場町 浜田 静
- 1978-IX 多数幼虫 X 16~23 羽化 ヨモギより 西脇市津万 徳岡正己
- 1983-X-2 多数 (若令) X 31~XI 3 羽化 ヨモギ 神戸市西区岩岡町 近藤伸一
- 1983-X-16 3 幼虫 (終令) 多くは蛹化したものとおもわれ、巣あとは多数あった。ヨモギより。赤穂郡上郡町赤松 近藤伸一
- 1983-X-22 幼虫多数 (若令~終令) ヨモギ、ハハコグサ、チチコグサモドキより 神戸市西区岩岡町 近藤伸一
- 1982-X-31 幼虫多数 (若令~終令) XII 1 より羽化 ヨモギより 相生市矢野町二木 唐土洋一
- 1983-XI-9 4 幼虫 (終令) XII 11 蛹化 1984年1月8日 現在も蛹、ヨモギより 氷上郡青垣町佐治 近藤伸一
- 1980-X 初旬 1 幼虫 XI 28 羽化、ヨモギより 西脇市津万 徳岡正己
- 1983-XII-30 1 幼虫 (若令) ヨモギより 神戸市西区岩岡町 近藤伸一

IV. ヒメアカタテハの生活史について

(1) 食草について

私の知る限り、今まで兵庫県において確認された本種の食草は、ヨモギであったが、1983年10月今回の観察地である神戸市西区の同一場所で、ヨモギ、ハハコグサ、チチコグサモドキの3種を食草としていることが確認出来た。(この時採集したチチコグサモドキで飼育した幼虫も蛹化した) 越冬の確認出来た食草はヨモギだけで、本年1~2月上記箇所を調査したが、ハハコグサは本数が少なく、チチコグサモドキは、食痕や巣の跡は多くあったが、茶色に変色している葉が多く、幼虫は確認出来なかった。ヨモギは10月~11月に開花して枯死するが、花をつけず緑の状態に残るものが有り、越冬幼虫のエサとなる。2月に入ると枯れたヨモギの根元から新芽が吹き出している。ハハコグサは、冬期のロゼットから4月上旬より急成長して4月末には花をつけ、5月中旬が満開となる。6月中旬は2~3本の独立した株が広範囲に散り、花をつける。10月になると地面に新芽がへばりついた状態でみられる。

ハハコグサ、チチコグサモドキとも本数が少ないため越冬幼虫の確認は出来なかったが、今後も注意して観察を続けたい。

(2) 幼虫について

本種の幼虫は4月、8月以外の月では、すべて確認出来た。冬期にも、寒さには、かなりの抵抗力をもち1月2月でも、気温が上昇すれば、摂食し、ゆっくりと成長する。しかしある限度以下になると死亡するようで、今冬のような気温の低い年は、かなりの減少があるものと推定出来る。幼虫の色はかなりの個体差があるようで写真は黒化した幼虫(左)とやや白化した幼

虫(右)である。



黒化した幼虫(左)とやや白化した幼虫(右)



ヨモギ・ハハコグサ・チチコグサモドキの3種が同時に食草となっていた空地
神戸市西区岩岡町にて(1983.10.22)



チチコグサモドキの葉
神戸市西区岩岡町にて(1983.10.22)

(3) 時期別の分布について

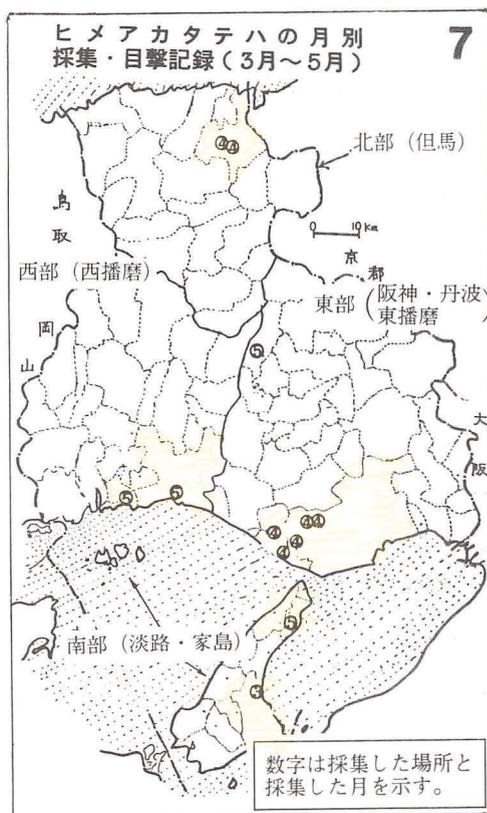
先の採集記録を地図上に表わしたのが図7～図10である。

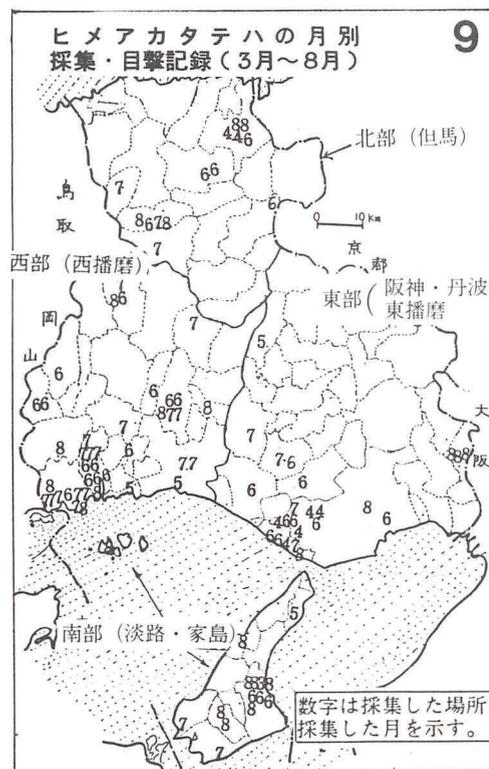
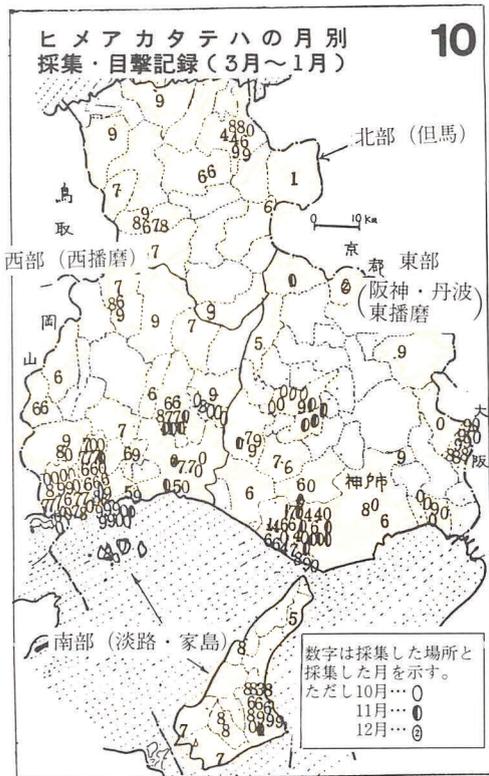
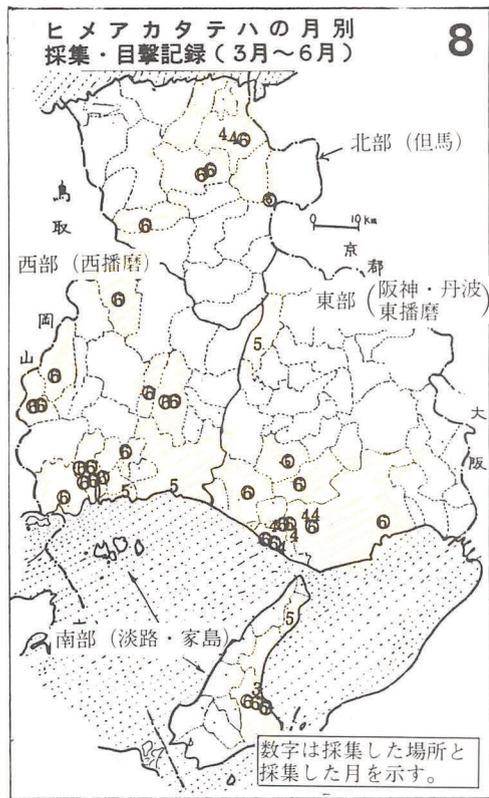
図7は第1化の個体が羽化する3月から5月までの記録である。淡路島及び海岸沿いの冬期温暖な地域がほとんどで、幼虫越冬の可能な場所と一致する。中央部の加美町の個体は、5月31日に採集されたもので、第2化の個体と推定出来る。北部豊岡市での2例が積雪地帯であり、幼虫での越冬は不可能とおもわれるので、他の場所で羽化したものが移動してきたものか、蛹の状態越冬して、羽化したものかは不明である。

北部日本海側は、気温は温暖であるため、積雪前に蛹化したものが、羽化した可能性もある。

図8は第2化の個体群が羽化する6月までの採集位置である。

図9は8月までの記録、図10がすべての記録を記入したもので、地域ごとに不揃いではあるが、全域に分布を広げていく様子が分る。





(4) 時期別の個体数の変動について

採集目撃個体数の記録を、地区別に月日ごとに表わしたのが表4である。採集例の無い月は2月だけで、残りの月はすべて採集、目撃の記録がある。しかし、1月20日を最後に3月31日までの記録はなく、1月20日の個体も越冬出来る状態のものではなかった。1983年は、3月から多くの同好の方々に本種について注意を払っていただいたが、キタテハ、ルリタテハ、アカタテハ等の成虫越冬個体は3月から、かなりの数を観察されたものの、本種は4月になって初めて1頭目撃されたにすぎず、やはり当地方での成虫越冬は確認出来なかった。

表から、4月を中心に発生する第1化目の個体数は大変少ないことが分る。

5月は1化の遅いものと、2化の早いものとが、例外的に発生するものの、幼虫、蛹の時期である。

6月に入ると第2化の個体群が一斉に羽化し、7月以降11月まで、連続して発生を繰り返す、10月には、羽化個体数がピークとなる。

南部(淡路島、家島)では、採集目撃の記録は少ないが、冬期の気温が高いためか、3月31日と春最も早い記録がある。次の記録が5月11日であり、2化目の

個体である可能性が高い。以下ダラダラと11月まで特にピークのない採集記録となっているが、洲本市の堀田久氏からの私信によると9月が発生のピークとなるとのことである。

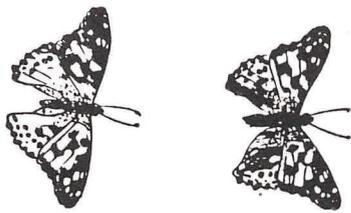
東部(阪神・丹波・東播)では第1化の記録は神戸市西区と明石市のものばかりである。今回越冬幼虫を確認したのもこの地域の南西部であり、毎年確実に越冬しているものとおもわれる。南東側は古くからの神戸の市街地であり、六甲山が迫っているため幼虫が越冬する場所としては冬期に適さないためか、記録はない。6月に入ると明らかな発生のピークが見られる。これは第2化目の個体群で飼育結果とも一致する。7月8月は特に発生数の山なく、9月10月11月と3回のピークがある。11月には成虫から若令幼虫まですべての段階で見られる。この時期に蛹化したものは、1月の気温の高い日が続くと羽化してしまう様で、1月の記録は、このケースと思われる。西脇市の徳岡正己氏によると、本種は、以前は大変希な種であったが1978年から急に大発生して、そのままの状況が現在まで続いているとの事である。

西部(西播)では、東部と比較すると、発生時期に少しのずれが有る事が分る。5月に第1化のものと思われる小型の暗化個体が得られている。第2化のピークは東部より約半月遅れて6月下旬になる。西部は東部と比較すると、冬期の気温が低いため、それが第1化の羽化時期の遅れとなり、その後の発生も少しづつづれているのかも知れない。飾磨郡夢前町の木村三郎氏によると、姫路市、夢前町においては、1978年から本種が大発生し、その状態が現在まで続いているとの事で西脇市の場合と同じである。

北部(但馬)では4月から1月まで記録があり、しかもこの地方は積雪地帯であるという事も興味深い。多数で群れる例が多いようで、豊岡市の木下賢司氏が、1979年8月30日豊岡市で、又石井貞志氏は1980年9月23日香住町の海岸で、多数の新鮮な個体が花に群れているのを目撃されている。

表4. ヒメアカタテハの発生状況

月	日~日	ヒメアカタテハの地区別・月・日別採集・目撃記録																												
		淡路・家島					阪神・丹波・東播					西播					但馬													
		南	東	西	北	馬	南	東	西	北	馬	南	東	西	北	馬	南	東	西	北	馬									
3	16-20	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	
	21-25																													
	26-31																													
4	1-5																													
	6-10																													
	11-15																													
	16-20																													
	21-25																													
	26-30																													
5	1-5																													
	6-10																													
	11-15																													
	16-20																													
	21-25																													
	26-31																													
6	1-5																													
	6-10																													
	11-15																													
	16-20																													
	21-25																													
	26-30																													
7	1-5																													
	6-10																													
	11-15																													
	16-20																													
	21-25																													
	26-31																													
8	1-5																													
	6-10																													
	11-15																													
	16-20																													
	21-25																													
	26-31																													
9	1-5																													
	6-10																													
	11-15																													
	16-20																													
	21-25																													
	26-30																													
10	1-5																													
	6-10																													
	11-15																													
	16-20																													
	21-25																													
	26-31																													
11	1-5																													
	6-10																													
	11-15																													
	16-20																													
	21-25																													
	26-30																													
12	1-5																													
	6-10																													
	11-15																													
	16-20																													
	21-25																													
	26-31																													
1	1-5																													
	6-10																													
	11-15																													
	16-20																													
	21-25																													
	26-31																													



(5) 年ごとの発生数の変動について

徳岡・木村両氏のほかにも多くの方々が1978年からの本種の個体数の急増を指摘されている。採集、目撃例の回数を年度ごとに表わしたのが表5である。

この表からも1977年から増加の兆候が現れ、1978年から明らかに大発生した事が分る。本種は、現在は特に希種でないため、ある程度の数を探集すると1人であまり採集する事は無く、1979年以降もよく見かけるが採集はしていないというのが現況の様である。

1978年から6月の採集数が多くなっており、この年から何らかの原因で越冬に成功した個体数が多かったのが、夏から秋へかけての大発生につながったものとおもわれる。

表 5

採集目撃回数 (年・月別)						
採集年	月	3月~5月	6月	7月~8月	9月~12月	合計
1950以前		1		1		2
1951~1955			1			1
1956~1960		3	1		3	7
1961~1965		2	2	2	5	11
1966			1	1		2
1967				3	3	6
1968						
1969				1	3	4
1970				3		3
1971				2	3	5
1972			1	1	4	6
1973	1			4	1	6
1974				1		1
1975			1	2		3
1976	1			1	3	5
1977			1	2	7	10
1978	2		5	11	28	46
1979			4	3	3	10
1980	1		3	2	5	11
1981			6	2	6	14
1982			1	3	4	8
1983	1		4	5	23	33
合計		12	31	50	101	194

(6) 初冬の成虫の行動について

自宅近くの畑の菊に本種が群れていたため、採集して後翅裏面にマジックインキで番号をつけて放した。11月13日から12月10日までの約1ヵ月間に24頭放して観察を行なった。

11月13日 晴 10:00~11:00 放蝶No.1~No.4

11月19日 晴 10:00~10:30 放蝶No.5~No.8

再確認……なし。

11月20日 晴 10:00~10:30 放蝶No.9~No.11
再確認No.5(♀) No.8(♀)
No.5、No.8ともさかんに菊で吸蜜

12:00~13:00 放蝶No.12~No.19
再確認No.5(♀) No.9(♂) No.10(♂)

11月23日 晴 12:00~13:00 放蝶No.20~No.23
再確認No.8(♀) No.9(♂) No.11(♀)
No.18(♂)

No.9(♂)No.20(♂)が明らかに占有行動をとり、近くへ来た本種を激しく追飛し、20m~40mぐらい追飛しては元の場所へ帰ってくる。しかし特定の場所を固守する訳ではなく、別の場所へすぐに移動する。上にとまっている個体の上を通り過ぎた場合でも、同様に追飛した。No.8(♀)に対してはNo.9、No.20ともに追飛しなかった。

11月27日 曇 10:00~10:50 放蝶No.24
再確認No.20(♂)
気温8.0℃~9.0℃日が照り出してNo.20が吸蜜に現れたが、すぐにいなくなる。その後12:00~12:40、15:30~16:00と観察を行なったが、本種は現れなかった。この日は、気温が低く太陽はときどき顔を出したが、風もあり寒く感じた。23日には数多く飛んでいたモンシロチョウも見ることが出来なかった。

12月3日 晴 14:00~14:10 放蝶なし。
再確認No.8(♀)
花の近くの太根の葉に翅を広げていたため、採集して初めてNo.8と分った。かなり速く飛ぶが花には行かなかった。

12月10日 晴 13:50~14:10 放蝶なし。
再確認なし。
気温16℃と高かったが、本種の姿は見る事が出来なかった。菊の花も

枯れ始めた。

以上が観察のすべてである。この時期は花に対する執着が強く、日光があたり、ある程度気温が上昇すると菊の花に集まって来た。この場所には、白、うすい色のピンク、こい色のピンク(中央部黄)、赤、黄色と5種類の色の菊があったが、こい色のピンクの花で吸蜜する回数が圧倒的に多かった。

同一場所に居る事を確認した日数は、11月19日～12月3日の14日間も同じ場所付近にいた♀を初め、4日間1♂、3日間2♂1♀、1日間1♀という結果からも、この時期移動する性質はあまり無いのかも知れない。



成虫行動の観察地…中央の菊の花に成虫が集まる
(神戸市西区岩岡町 1983.11.27)



花に来た標識虫No20 (1983.11.27)

おわりに

今冬は記録的な大雪が当地でも3回あり、また気温も例年になく低いが、本種の越冬幼虫は今年も確認出来た。しかし全滅したと思われる場所もあった。冬期の低温が発生数にどれほどの影響を及ぼすのか、興味深い。

兵庫県下で、ある年を境に捕獲数が急増した蝶の例がある。広畑政己氏(1980-ひろおび5)の調査によるとナガサキアゲハの採集数は1976年までは、年に数頭しか採集されない迷蝶であったが、1977年の秋から大発生して、この年は102頭が採集され、その後は土着している。同じく広畑氏(1982-てんとうむし8)によるとクロコノマチョウの1950年から1981年の約30年間の採集記録は46頭であるが、1977年に4頭1979年7頭1980年11頭と全体の採集数の半数をこの時期に記録している。

このように北に分布を拡大しつつある暖地性の昆虫が1977～1980年を境として増加した事実注目要する。

ヒメアカタテハの移動については、具体的な証明はなく、これまで千葉県松井氏夫妻が成虫のマーキングによる移動調査をされて来たが、まだ放蝶の再確認は無い。

私も本種の移動調査に協力すべく放蝶を続けたいと思うので、もし標識虫を捕獲された方は一報をお願いしたい。

最後になったが、今回の調査に際し、木村三郎、広畑政己、松井安俊、松井英子の各氏には、多数の文献をいただき、御指導を仰いだ。また下記の各氏にいろいろと御教示いただき、多くの貴重な採集記録をいただいた。厚くお礼申し上げる。

相坂耕作、浅田卓、石井貞志、石井為久、入江照夫、岩村巖、尾崎勇、木下賢司、黒田収、小坂文之、佐々木薫、島崎正美、高嶋明、高島昭、竹内俊行、徳岡正己、花岡正、浜田静、平尾栄治、堀田久、村上裕通、森下泰治、唐土洋一、八木弘、吉田豊、米村和繁
(敬称略)

参考文献

1. 猪股涼一、岡本清(1960)多可西脇地方の昆虫(蝶類)兵庫生物4(1)
2. 上田尚志(1980)家島群島の昆虫(1) きべりはむし8(2)
3. 大阪昆虫同好会(1981)北摂の昆虫
4. 小倉滋、高橋久夫(1978)三木市内の蝶について…きべりはむし6(1/2)
5. 木下賢司(1977)来日岳の蝶類Iratsume(1)
6. 島田真輔(1982)美方町の蝶 Iratsume(6)
7. 白水 隆(1983)ヒメアカタテハ インセクトリウムVol.20/No.11
8. 谷角素彦(1978)日高町金山の蝶Iratsume(II)
9. 仲田元亮(1982)能勢の昆虫I
10. 苦木隆幸(1980)姫路市御立北山の蝶 ひ

- ろおび(5)
11. 日本気象協会神戸支部 兵庫県気象月報
12. 林 俊雅(1981) 洲本市の蝶類採集記録
Parnassius (24)
13. 広畑政己(1982) 兵庫県産蝶類分布資料(2)
てんとうむし(8)
14. 広畑政己(1980) 兵庫県のナガサキアゲハ
ひろおび(5)
15. 福田晴夫ほか 原色日本蝶類生態図鑑(II)
(保育社)
16. 松井英子、松井安俊(1981) ヒメアカタテハの非休眠
越冬 昆虫と自然16(10)
17. 松井英子、松井安俊(1982) 南関東におけるヒメアカ
タテハの幼虫の越冬例
月刊むし No.136
18. 松井英子、松井安俊(1983) 日本列島におけるヒメア
カタテハの移動 昆虫と
自然18(2)
19. 三木 進(1979) 六甲山系(西部)の蝶
きべりはむし 7(1)
20. 山本広一、吉阪道雄(1960) 兵庫県産蝶類目録(3) 兵
庫生物 4(1)

(Shinichi Kondo)

〒674 神戸市

ヒロオビミドリシジミを追って

川崎 悟 良

ヒロオビミドリシジミの食樹ナラガシワをもとめて今回は新宮町の牧と同町千本に的をしぼり、会員7名にて分布調査を行った。あいにくの小雨で、午後には本降りとなったが、卵は発見できて、雨の中の苦労が実った。他に幾種類かの卵や幼虫が採集できたのでその記録の中から1例づつ下記の通り報告する。

(採集記録)

1. 新宮町牧

ミズイロオナガシジミ	13卵	岩村 巖
ウスイロオナガシジミ	9卵	近藤伸一
アカシジミ	1卵	〃
ウラゴマダラシジミ	13卵	広畑政己

ウラジロミドリシジミ	10卵	八木 弘
ウラムシシジミ	2卵	川崎悟良
ヒロオビミドリシジミ	1卵	広畑政己

2. 新宮町千本

ミズイロオナガシジミ	1卵	広畑政己
ウスイロオナガシジミ	14卵	〃
ウラゴマダラシジミ	3卵	〃
ウラジロミドリシジミ	2卵	佐々木薫
ゴマダラチョウ	幼虫2頭	近藤伸一
オオムラサキ	幼虫1頭	〃

以上、採集日は1984年1月15日である。尚、念のためヒロオビミドリシジミの卵の同定は原雅幸氏にお願ひした。ここに記してお礼申し上げる。

Goro Kawasaki

〒678 相生市

メスアカミドリシジミの 採集記録2例

広畑 政 己

本種は県下中西部の山地には広く分布しているが、南部にいくにしたがって産地は少なくなる。

県下に於ける南限の記録は姫路市林田町六九谷¹⁾であるが、確実に分布しているということになれば、夢前町雪彦山から山崎町梯を経て佐用町日名倉山を結ぶ線が現在のところ本種の分布の南限となっている。

このたび発見した産地は、佐用町上石井の標高約280mの地点で、若州部落に入手前の佐用川沿のサクラより3卵を得ている。千種川水系の佐用川流域では、高田・井手(1978)の日名倉山の記録に次ぐもので、それよりさらに南の記録である。

あと1例は、円山川水系神子畑川支流の佐中川流域の佐中(標高約300m)で、2卵を採集している。朝来町では奥多々良木³⁾の記録があるが、その他の記録は見当たらないので報告しておきたい。

(採集記録)

佐用郡佐用町上石井 3卵 27-XI -1983

広畑政己

朝来郡朝来町佐中 1♂1♀(羽化) 8-V-1983

広畑政己

〈参考文献〉

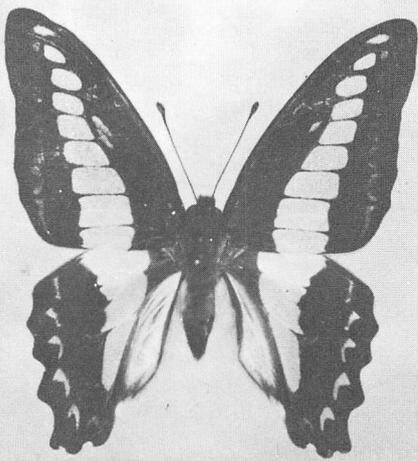
- 1) 高田忠彦、井手敏晴(1978) 兵庫県産蝶類調査報 MDKNEWS 28(79) :30-32
- 2) 相坂耕作(1980) 姫路市の昆虫 てんとうむし(6) :11-12
- 3) 岩村 巖(1980) 西播の蝶分布資料 てんとうむし(6) :21-22

Masami Hirohata 〒671-22 姫路市打越1343-259

アオスジアゲハの エサキ型採集例

佐々木 薫

アオスジアゲハ前翅中室内に斑紋の現れた個体（エサキ型）の採集例は播磨蝶友会の会員である入江照夫氏によっても会誌ひろおびNo.4 P14に於いて採集報告され、他にも時々採集例をみることがあるが当地域からの報告はこれまでは無かったと思うので知らせておく。



採集地 宍粟郡波賀町原 赤西溪谷

採集日 15. V. 1983

採集者 佐々木 薫

未筆ながら今回の報告にあたって写真を撮っていた
だいた入江照夫氏にお礼を申しあげる。

〈参考文献〉

1. 入江照夫 室津の異常型アオスジアゲハ
ひろおびNo.4

Kaoru Sasaki

〒678 兵庫県相生市赤坂町1丁目121の1

ナガサキアゲハ雌の黒化型

広畑 政己

本種の雌の後翅の白斑は南下するほど発達する傾向が強く、八重島諸島のものは白化が顕著に現れることはよく知られている。

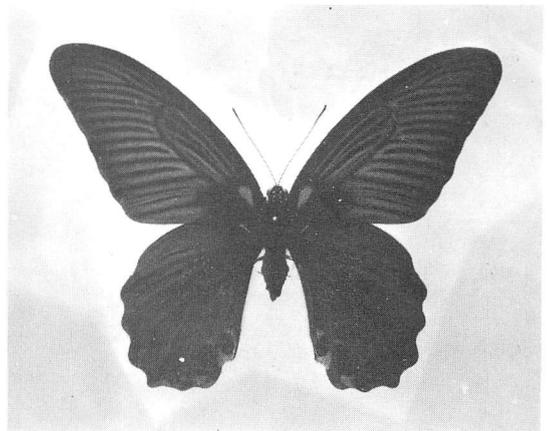
兵庫県に於ては、ときおり白斑の発達した個体が採集されるが、大半は白斑の発達が弱く、後翅3室か、よくでて4室までである。

この度羽化した個体は、白斑が全く見られず、一見雄と思われるような個体である。この他にも2頭の雌が羽化しているが、この個体に近いものが1頭と、後翅2室と3室に白斑が少し現れたものが1頭羽化している。

母蝶も後翅は3室までわずかに現れた個体であったが、10月10日に採卵し、羽化が寒季の1月27日ということも多少影響しているのかもしれない。母蝶を御提供下さった唐土洋氏にお礼申し上げる。

〈データ〉

相生市鱒浜 1♀ 27-I-1983 (羽化)



Masami Hirohata

〒671-22 姫路市打越1343-259

兵庫県 の 蝶 (2) 揖保川水系の蝶相

尾崎 勇

揖保川は西部播州地方の中央部を流れている延長69736mの川である。その源流は藤無山(標高1139m)で、支流の引原川(引原川の源流は藤無山の西部)と林田川(源流は雪彦山標高884m)の水を合わせて姫路市網干より瀬戸内海に注いでいる。

揖保川流域に産する蝶類は、県内に産する蝶の内、三種をのぞき、その全ての種を産する。

1) 河口附近

揖保川は河口近くで中川と元川とに分かれていて中州を造っている。中州の部落が姫路市網干区浜田である。河口は埋立てられて、二、三の工場と伐木港ができているが、空地も多く、雑草が生い茂っている。

河口附近は温暖で西岸近くの揖保郡御津町室津ではナガサキアゲハが土着している。同地での幼虫の食樹は、アマナツカンとウンシュウミカンである。

他に御津町では、クロコノマチョウが採集されている。御津町内にはジュズダマが多く生育している。

1980年10月に、伐木港近くの空地でメスアカムラサキ1♂を目撃している。工場予定地内のエノキやヤナギでは、ゴマダラチョウやコムラサキの幼虫も採集できる。中川と元川との分岐点の中州で、シルビアシジミが多産している。ここより上流部は、西岸が蝶の採集にはよい。ウラキシジミ、ミドリシジミ、オオミドリシジミ、アカシジミ、ウラナミアカシジミなど低地性のゼフ類も顔を出す。アオスジアゲハ、ジャコウアゲハも多産している。

(2) 前川 MAEKAWA

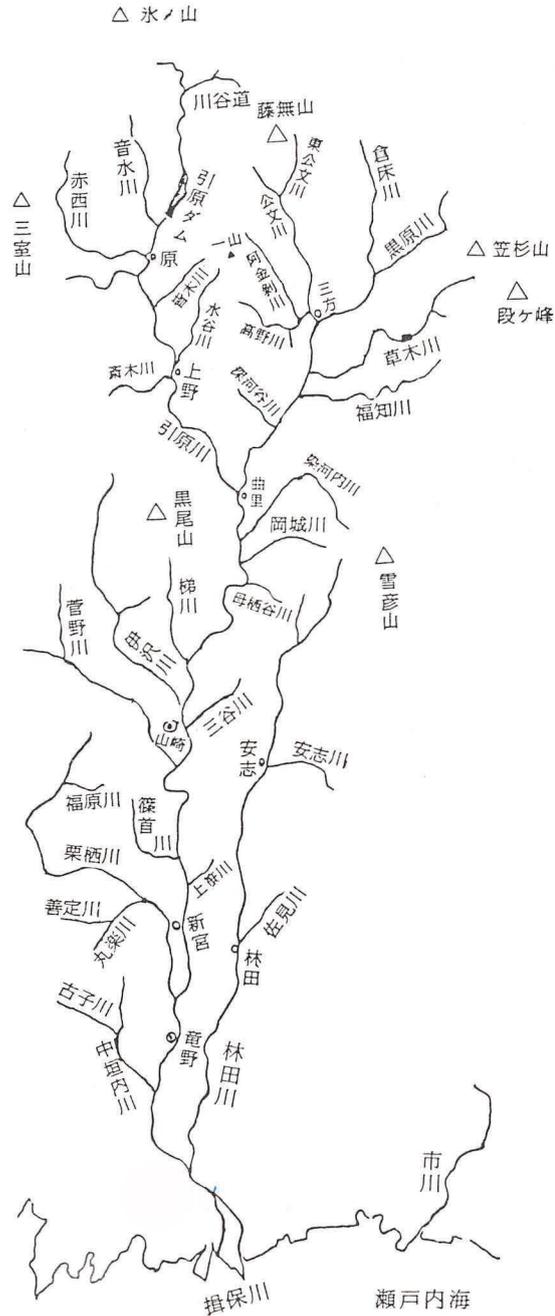
揖保郡揖保川町金剛山より本流へ合流しているのが前川である。前川流域では、ヒメカンアオイが2箇所生育している。本州でのヒメカンアオイ自生地の西限である。同地ではギフチョウは発生していない。

(3) 林田川 HAYASHIDAGAWA

林田川の源流は雪彦山である。下流部は平野を流れているので、これといった蝶は採集されていない。

国鉄網干駅東部で、近年キマダラリツバメが採集されている。姫路市林田町に入ると、六九谷でメスアカミドリシジミの幼虫やウラジロミドリシジミが採

揖保川水系図



集されている。安富町塩野では、ヒロオビミドリシジミも採卵されたが、食樹のナラガシワが伐採されてしまった。安富町安志より上流部では、だんだんと山地性の蝶が見られるようになった。ミヤマカラスアゲハ、スジボソヤマキチョウ、オオムラサキ、ミスジチョウ、スミナガシなどが採集されている。なぜかウスバアゲハは林田川流域より採集されていない。

同じ雪彦山より流れている夢前川上流部の坂根や熊部部落では採集されている。林田川へ流入している他の河川流域は、山も低く採集者も少ないのか、採集記録がほとんどない。

(4) 十文字川 DOZI GAWA

十文字川は竜野市鶏籠山国有林より流れている（揖保川への合流点1500m）小河川であるが、鶏籠山が公園で樹木が保護されているので昆虫は多い。特にアゲハチョウ類が多産している。林内にはカラスザンショウが多く、アオスジアゲハ、モンキアゲハ、クロアゲハ、アゲハ、オナガアゲハ、ナガサキアゲハ、カラスアゲハ、ジャコウアゲハが採集され、ミヤコアオイも生育している。竜野市内の寺院や古い民家の屋根にはツメレンゲが生育しており、クロツバメシジミが発生している。

(5) 栗栖川 KURISUGAWA

竜野の少し上流部で揖保川に流入しているのが栗栖川である。栗栖川は揖保郡新宮町全域を流れている。

栗栖川流域では、ヒロオビミドリシジミ、ウラジロミドリシジミ、ウスイロオナガシジミ、ウラミスジシジミのほか低地性のゼフ類が採集されている。上流部ではミスジチョウも発生しているが個体数は少ない。

同川へ流入している福原川流域へは調査に入ることがないが、上流部でもあり、あまり植林もされていないので採集にはよきそうなどころである。

(6) 菅野川 SUGANOGAWA

山崎の町の少し下手で西方より流入しているのが菅野川である。このあたりまで来ると山地性の蝶が姿をみせ出す。青木部落では、ヒロオビミドリシジミとウラジロミドリシジミが採集されている。上流の部落塩田では、ウラミスジシジミとミスジチョウの幼虫が採集されているが、ウスアゲハは産しない。

(7) 伊沢川 ISOGAWA

黒尾山の西部を源流として山崎の街中で揖保川本流へ合流しているのが伊沢川である。上流の岩上神社周

辺ではスミナガシを産している。上ノ上部落ではウスバアゲハが採れる。神社より上は林道になっていて植林が進んでいるが、植林地を抜けるとやがて自然林がみえてくる。道もなくなるが川沿いに進むとウラクロシジミ、ヒサマツミドリシジミ、アイノミドリシジミ、メスアカミドリシジミが採卵されている。

上ノ上部落より右手に上って行くと道は急坂となる。

このあたりは近年伐採されているが、ところどころに原生林の名残りらしきところもある。スギタニルリシジミ、メスアカミドリなどが採れる。さらに上るとやがて牧場へ出る。牧場ではヒョウモンチョウ類が多産している。このあたりまで来ると、伊沢川も小溝となっている。ミスジチョウも採集されている。

(8) 梯川 KAKEHASHIGAWA

山崎の街を出て国道29号線を北上すると五十波部落で、本流へ合流しているのが梯川である。同川も黒尾川南面を源流としている。梯部落より上流は林道となっている。蝶の卵採集には林道がよい。ヒサマツミドリシジミ、フジミドリシジミ、メスアカミドリシジミなどが採卵されている。ほかにスミナガシ、ウラキンシジミ、クロツバメシジミ、ミヤマチャバネセセリの採集記録もある。

(9) 母栖谷川 MOSUDANIGAWA

母栖谷川は東方より本流へ流れ込んでいる小川である。奥の母栖部落は山の中腹にある小さな集落で蝶の採集者もあまり訪れない所である。筆者は2度の調査行では特筆すべき種は出なかったが、オオムラサキを目撃している。部落より山の中腹を北へ行く小道があり、30分程雑木（コナラ、クスギ林）を行くと急に開け稲作地に出る。このあたりではヒメキマダラヒカゲ、スジグロチャバネセセリを産する。さらに小道は尾根へと続くが、だんだんと道は無くなり、いつの間にか原生林に入ってしまう。稜線を越えて東側の急斜面を下ると林田川の源流部へと出る。

原生林内では夏期でもあり雑甲虫が採集されたのみであった。

(10) 染河内川 SOMEGOUTHIGAWA

一宮町に入り東市場で東方より本流へ合流しているのが染河内川である。源流は峰山高原である。高原ではオオウラギンヒョウモン、ウスイロヒョウモンモドキなど草原性の蝶の記録がある。だが近年はひらけてしまい登山者も多くなって、蝶も少なくなり同好者はあまり採集に行かなくなった、1960年頃はよい採集地

であった。

(11) 引原川 HIKIHARAGAWA

一宮町曲里で揖保川は大きく分かれる。上流に向かって左方より合流しているのが引原川である。引原川は氷の山の南面と水無山の西面を源としている。

引原部落は、昭和30年より始まった引原ダムによって湖底に沈んだ。筆者は若かりしころ（1953年）に同地を訪れたことがある。そのころは細いガタガタ道をオンボロバスに揺られて、川に沿って奥へ奥へと進んだ。昆虫マニアの筆者には夢の様なところで、どちらを見ても原生林があり、道沿いには蝶、蝶、蝶であった。

(12) 斎木川 SAIKIGAWA

引原川への合流点は有賀部落で、斎木川に沿って上り峠へ越えると千草町に通じる。途中千草カントリーを経てウスイロヒョウモンモドキやオオヒカゲの多産する鷹巣部落に通じる道もある。また伊沢川の源流部へも通じている。近年斎木川筋は伐採されて魅力のなくなった川筋である。引原川流域でのウスバアゲハはこのあたりから発生している。

(13) 水谷川 MIZUTANIGAWA

一山の西面を源とするのが水谷川で、引原川への合流点は上野部落である。水谷川筋は植林が進み、行けども行けども杉だらけである。水谷部落周辺では夏期コムラサキ、ヒメキマダラヒカゲ、ホシチャバネセセリを産する。スジグロチャバネセセリも産する様であるが、筆者の調査では発見できなかった。川筋では、春期オナガアゲハが多産する。川筋の途中で一宮町三方に通ずる林道がある。筆者も一度林道を三方部落へと越えたことがあるが、死の道である。

道の両側が杉林で小鳥の声も聞こえず、たまに飛行している蝶はホソバセセリのみであった。部落より東山に通ずる林道があり途中に湿地帯がある。かつてはこの付近でヒョウモンモドキが産した。湿地附近では蝶類は多種産している。オオヒカゲ、ヒメヒカゲ、キマダラモドキ、オオウラギンスジヒョウモンなどが発生している。少ないがスジグロチャバネセセリ、ハヤシミドリシジミも産する。しかし湿地の回りは植林されており、10年後にはこの地も死の谷となるであろうか。

(14) 皆木川 MINAKIGAWA

水谷川の少し上流で、一山の西面を源に引原川に合

流しているのが皆木川である。皆木部落ではウスバアゲハが多産している。だが川は小さく、近くには赤西溪谷などの有名採集地があるのでどうしても通り過ぎてしまう。筆者も皆木部落より上流へは調査に入ることがない。一度は調査してみたいと思っている。

(15) 赤西川 AKASAIGAWA

原部落が合流点で、三室山の東面を源としている赤西川は八丈川と共に蝶や甲虫の多産地である。八丈川の上流に播州地方一の不動滝がある。原部落には町立のサイクリングターミナルが建っている。音水、赤西の木材専用の森林軌道が有賀までついていたが、自動車運送に変わったことからこの軌道の一部をサイクリングロードにしている。家族連れの子供の昆虫採集には、引原川に添ってついているサイクリングロードもよい、蝶、トンボ、甲虫などの種々の虫が採れる。山地性の山野草も多種生育している。赤西川上流部は国有林で、伐採が急テンポに行なわれている。川の入口近くでは、スミナガシが多産し、ミヤマカラスアゲハ、カラスアゲハなどのアゲハ類が多数吸水しているのに会うこともある。上流へ行くにしたがって種々の蝶に出会う。溪流添のモミジの上部では、ミスジチョウがゆっくりと舞っている。雨上りにはががが吸水している。早朝には、ジョウザンミドリやエゾミドリのがの追飛行も目撃できる。営林署小屋近くでは、オナガシジミも産している。ほかにヒサマツ、アイノ、メスアカミドリも発生している。

(16) 音水川 ONZUIGAWA

引原ダムのすぐ下流を合流点に三室山北東面を源にしているのが音水川である。音水川も蝶やカミキリムシの好採集地であるが、原生林の残されているのは谷の入口近くだけである。5月には音水部落でミヤマカラスアゲハやウスバアゲハの採集者を多く見かける。

現在の音水川上流部は伐採が進み植林されて、スギヒノキばかりである。林道の立入禁止のクサリがある場所までが採集にはよい。かつての音水川はうっそうとした原生林で、林道が開通する以前は川筋には桁の太木が多く、スギタニルリシジミの発生期（4月下旬）には、数百頭の蝶が乱舞していたのを思い出す。現在は桁も切れ数える程しか残っていない。

もちろんスギタニルリシジミも少なくなった。

音水部落入口で川に沿って（国道29号線からは谷下旧道がダムまで残っている。この道筋や川原でミヤマカラスアゲハが吸水している9月頃には、スジボンヤマキチョウも多産する。引原ダム（音水湖）の西岸は、

ダムのできた当時はダニが多く、通行困難な道であった。だが種々の蝶に出会った。アイノミドリシジミを採集したのも谷筋へ少し入った所であった。

現在は、車も通れ家族連れ採集にはよいだろう。秋にはスジボンヤマキチョウも多数みかける。

(17) 道谷川 DODANIGAWA

引原ダムをさらに上流へ29号線を行くと、戸倉部落がある。部落の手前で東より流入しているのが道谷川で、藤無山の北西傾面を源流としている。道は若杉峠を越えて養父郡大屋町若杉部落に通じる。道谷部落には新戸倉スキー場があり、夏期のスキー場は一面のススキ草原で、ウスイロヒョウモンモドキ、ギンイチモンジセセリが多産する。スキー場への道沿いではハヤシミドリシジミ、ミドリシジミを産し、少ないがクロシジミも発生している。峠近くでオオウラギンヒョウモンも採集されている。ヒョウモンモドキを目撃したとのことである。冬期のゼフ採卵では、メスアカ、アイノ、ジョウザン、フジなどのゼフ卵は赤西川、音水川、道谷川などの流域や戸倉峠方面では全種が採卵されている。戸倉スキー場でもウスイロヒョウモンモドキは発生している。ほかにミヤマカラスアゲハ、各種ヒョウモンチョウ類、スミナガシが多産している。峠が開通する以前、秋期にシートテハを目撃したこともある。

(18) 福知川 FUKUCHIGAWA

福知川は砥峰高原を源に揖保川本流に合流している。谷の入口附近よりマス釣場までのウラジロガシにはヒサマツミドリシジミが産卵している。5月中旬にはウスバアゲハが発生している。マス釣場より上流部にはメスアカミドリシジミが多産する。高原近くではジョウザンミドリシジミも産する。高原の湿地にはウスイロヒョウモンモドキ、ヒメヒカゲなどの草原性の蝶を産する。高原方面に上らず川筋を上流へ進むと杉林となるが、さらに上流へ上ると急に開ける。

この辺まで来ると蝶の採集者も入山していない。

ウスイロヒョウモンモドキは多産している。ヒョウモンモドキやオオヒカゲの発生も可能な湿地草原である。草原を過ぎ急斜面の踏跡道を上ると稜線へ出る。稜線を北に行くと千町峠へ出る。峠より東方へ下ると生野町へ、西方に下ると千町部落に出る。福知溪谷はミヤマカラスアゲハは少なく、カラスアゲハは多産する。ミスジチョウも発生している。

(19) 草木川 KUSAKIGAWA

福知部落より上流の福中部落で本流に合流しているのが草木川である。源流は千町川と言われ、笠形の山の西面より流れ出ている。この川筋には多種の蝶を産する。福中部落を川上へ進むと先づオオムラサキ、ゴマダラチョウを産する。少ないがヒロオビミドリシジミ、ウラジロミドリシジミ、ウスイロオナガシジミ、オオミドリシジミなどの場所もある。メスアカミドリシジミは川筋全域に発生している。さらに川上へ進むとウラジロガシが多くなり、ヒサマツミドリシジミ、ウラミスジシジミが発生している。やがて草木部落に出る部落内にはカラスアゲハ、ウスバアゲハ、アオバセセリを多産する。現在は草木部落へは峠を越える車道ができており、福中部落より草木部落への道は廃道となっている。車も通らずのんびりと採集できるよい道筋である。草木部落より千町部落までは平凡な道でカラスアゲハ、ウスバアゲハ、ヒョウモン類が採集されるぐらいであるが、一歩支谷に入るとエゾミドリシジミ、ジョウザンミドリシジミの産した谷もあったが、ミズナラが伐採されてしまった。

千町部落より但馬の奥田路部落へ出る旧峠路があり笠杉山西斜面はなだらかで草原である。かつては但馬牛の放牧場であったが、現在は放牧されていないようである。笠杉山へは生野の段ヶ峰より稜線の道を行く方がよい。草原の凹地に湿地帯でもあれば、ヒョウモンモドキ、ウスイロヒョウモンモドキ、オオウラギンヒョウモンなどの草原性蝶の発生しそうな草原である。筆者はこの草原の調査はしていないが、調査してみたいと思っている場所のひとつである。

下千町部落より千町峠へと登る路がある。この路沿は、近年伐採され魅力のなくなった路である。千町峠にヒサマツミドリシジミが産することは、1965年頃には蝶マニアの間で話題になっていた。筆者も早朝に家を出て峠に登ったものである。峠には11時頃にたどりついた。13時頃稜線にゼフらしき蝶が姿をみせる。だがその頃になると決まって夕立がくるのである。2度ばかり目撃したが採集はできなかった。その後ヒサマツミドリシジミの幼虫の食樹がウラジロガシと発表され、段ヶ峰斜面にはウラジロガシが残されている所も多く、ヒサマツミドリも発生しているので、昔千町峠で目撃したのはやはりヒサマツであったのだなど、なつかしく、稜線を長いゼフ竿をかついで行き来したのを思い出す。筆者が最初にヒサマツの卵を採卵したのも草木川流域である。切り倒されて枝だけが残され、葉も枯れていたウラジロガシからであった。

⑳ 公文川 KUMONGAWA

公文川は東公文川、阿舎利川、高野川の流れを合わせて一宮町三方で揖保川に合流している。源流は藤無山である。三方部落周辺はウスバアゲハの多産地である。5月中旬頃に白い蝶が飛んでいけば、ウスバアゲハと思えばよい。ほかにオナガアゲハ、ミヤマカラスアゲハも多産する。上流の志倉部落附近では、スギタニルリシジミが産する。阿舎利川上流の阿舎利部落でオナガシジミの採集記録もある。阿舎利川と高野川の合流点附近でジャコウアゲハが多産していた。同方面は桜が少なく、メスアカミドリは少ない。公文川流域の夏期の調査記録は少なく、ほかの蝶のことはあまりわかっていない。公文川上流より藤無山を越えて、養父郡大屋町若杉へ通ずる路もある。また志倉より引原ダムに通ずる小路もあるが、樹林が深く蝶は期待できない。

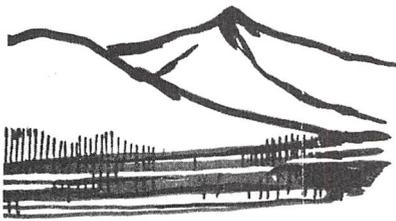
㉑ 黒原川 KUROHARAGAWA

黒原川は笠杉山の北方の無名峰を源流に、上片田部落で合流している。流域にはオオムラサキ、ミヤマカラスアゲハ、ヒサマツ、アイノ、メスアカ、ウラミスジ、ジョウザン、エゾ、ウラクロ、フジなど一通りのゼフ類は産する。ヒロオビミドリ、ウスイロオナガも発生している。黒原部落より朝来郡朝来町神子畑に通じる車道も開通している。採集には車道沿いよりも支谷に入った方がよく、思わぬ蝶が採集できる。

㉒ 倉床川 KURATOKOGAWA

倉床川は揖保川の最上流部の川である。富士野部落ではウスバアゲハを産する。部落より上流部へは筆者は調査に入っていない。調査行の際に、道路が伐採のため通行止になっていた。それ以後再調査の機会をもたない。上流部でのゼフ類の採卵では、フジ、アイノメスアカ、ジョウザン、ヒサマツなどが記録されている。

Isamu Ozaki 〒673 明石市藤ヶ丘2丁目10-7



揖保川水系に産する蝶類目録

Papilionida アゲハチョウ科

- 1) *Parnassius glacialis* BUTLER (ウスバアゲハ)
- 2) *Atrophaneura alcinous* KLUG (ジャコウアゲハ)
- 3) *Graphium sarpedon* FRUHSTORFER (アオスジアゲハ)
- 4) *Papilio machaon* C. & R. FELDER (キアゲハ)
- 5) *Papilio xuthus* LINNAEUS (アゲハ)
- 6) *Papilio helenus* LINNAEUS (モンキアゲハ)
- 7) *Papilio protenor* CRAMER (クロアゲハ)
- 8) *Papilio macilentus* JANSON (オナガアゲハ)
- 9) *Papilio memnon* VONSIEBOLD (ナガサキアゲハ)
- 10) *Papilio bianor* C. & R. FELDER (カラスアゲハ)
- 11) *Papilio maackii* FENTON (ミヤマカラスアゲハ)

Pieridae シロチョウ科

- 1) *Pieris rapae* LINNAEUS (モンシロチョウ)
- 2) *Pieris melete* MENETRIES (スジグロシロチョウ)
- 3) *Pieris napi* SHIROZU (エゾスジグロシロチョウ)
- 4) *Anthocharis scolymus* BUTLER (ツマキチョウ)
- 5) *Eurema hecabe* DE L'ORZA (キチョウ)
- 6) *Eurema laeta* JANSON (ツマグロキチョウ)
- 7) *Colias erate* MOTSCHULSKY (モンキチョウ)
- 8) *Gonepteryx aspasia* VERITY (スジボンヤマキチョウ)

Nymphalidae タテハチョウ科

- 1) *Melitaea diamina* FRUHSTORFER (ウスイロヒョウモンモドキ)
- 2) *Melitaea scotosia* BUTLER (ヒョウモンモドキ)
- 3) *Argyrogonome laodice* MENETRIES (ウラギンスジヒョウモン)
- 4) *Argyrogonome rursana* JANSON (オオウラギンスジヒョウモン)
- 5) *Damora sagana* FRUHSTORFER (メスグロヒョウモン)
- 6) *Nephargynnis anadyomene* BUTLER (クモガタヒョウモン)
- 7) *Argynnis paphia* HEMMING (ミドリヒョウモン)
- 8) *Fabriciana adippe* BUTLER (ウラギンヒョウモン)
- 9) *Fabriciana nerippe* C. & R. FELDER (オオウラギンヒョウモン)
- 10) *Argyreus hyperbius* LINNAEUS (ツマグロヒョウモン)
- 11) *Limenitis glorifica* FRUHSTORFER (アサマイチモンジ)
- 12) *Limenitis japonica* MENETRIES (イチモンジチョウ)
- 13) *Neptis sappho* W. B. PRYER (コミスジ)
- 14) *Neptis philyra* BUTLER (ミスジチョウ)
- 15) *Neptis pryeri* BUTLER (ホシミスジ)
- 16) *Araschnia burejana* BUTLER (サカハチチョウ)

- 17) *Polygonia c-aureum* LINNAEUS (キタテハ)
- 18) *Nymphalis xanthomelas* STICHEL (ヒオドシチョウ)
- 19) *Kaniska canace* VON SIEBOLD (ルリタテハ)
- 20) *Cynthia cardui* LINNAEUS (ヒメアカタテハ)
- 21) *Vanessa indica* HERBST (アカタテハ)
- 22) *Dichorragia nisimachus* ERUHSTORFER (スミナガシ)
- 23) *Apatura metis* BUTLER (コムラサキ)
- 24) *Hestina japonica* C.&R.FELDER (ゴマダラチョウ)
- 25) *Sasakia charonda* HEWITSON (オオムラサキ)

Lycaenidae シジミチョウ科

- 1) *Narathura japonica* MOORE MURRAY (ムラサキシジミ)
- 2) *Artopoetes pryeri* MURRAY (ウラゴマダラシジミ)
- 3) *Ussuriana stygiana* BUTLER (ウラキンシジミ)
- 4) *Iratsume orsedice* BUTLER (ウラクロシジミ)
- 5) *Japonica lutea* HEWITSON (アカシジミ)
- 6) *Japonica saepestriata* HEWITSON (ウラナミアカシジミ)
- 7) *Wagimo signata* BUTLER (ウラミスジシジミ)
- 8) *Antigius attilia* BREMER (ミズイロオナガシジミ)
- 9) *Antigius butleri* FENTON (ウスイロオナガシジミ)
- 10) *Araragi enthea* JANSON (オナガシジミ)
- 11) *Neozephyrus taxila* BREMER (ミドリシジミ)
- 12) *Chrysozephyrus smaragdinus* BREMER (メダカミドリシジミ)
- 13) *Chrysozephyrus aurorinus* OBERTHUR (アイノミドリシジミ)
- 14) *Chrysozephyrus hisamatsusanus* NAGAMI & ISH IGA (ヒサマツミドリシジミ)
- 15) *Favonius saphirinus* STAUPINGER (ウラジロミドリシジミ)
- 16) *Favonius orientalis* MURRAY (オオミドリシジミ)
- 17) *Favonius cognatus* STAUDINGER (ジョウザンミドリシジミ)
- 18) *Favonius jezoensis* MATSUMURA (エノミドリシジミ)
- 19) *Favonius ultramarinus* FIXSEN (ハヤシミドリシジミ)
- 20) *Favonius latifasciatus* SHIROZU&HAYASHI (ヒロオビミドリシジミ)
- 21) *Quercusia fujisana* MATSUMURA (フジミドリシジミ)
- 22) *Rapala arata* BREMER (トラフシジミ)
- 23) *Spindasis takanonis* MATSUMURA (キマダラルリツバメ)
- 24) *Callophrys ferrea* BUTLER (コツバメ)
- 25) *Lycaena phlaeas* SEITZ (ベニシジミ)
- 26) *Taraka hamada* DRUCE (ゴイシシジミ)
- 27) *Niphanda fusca* FRUHSTORFER (クロシジミ)
- 28) *Lampides boeticus* LINNAEUS (ウラナミシジミ)
- 29) *Zizeeria maha* MENETRIER (ヤマトシジミ)
- 30) *Zizina otis* DE L'ORZA (シルビアシジミ)
- 31) *Celastrina argiolus* DE L'ORZA (ルリシジミ)
- 32) *Celastrina sugitanii* MATSUMURA (スギタニルリシジミ)

- 33) *Everes argiades* MENETRIES (ツバメシジミ)
- 34) *Tongeia fischeri* EVERSMANN (クロツバメシジミ)

Satyridae ジャノメチョウ科

- 1) *Ypthima argus* BUTLER (ヒメウラナミジャノメ)
- 2) *Ypthima motschulskyi* MURAYAMA (ウラナミジャノメ)
- 3) *Minois dryas* MOTSCHULSKY (ジャノメチョウ)
- 4) *Harima callipteris* BUTLER (ヒメキマダラヒカゲ)
- 5) *Kirinia epaminondas* STAUDINGER (キマダラモドキ)
- 6) *Ninguta schrenckii* FRUHSTORFER (オオヒカゲ)
- 7) *Lethe diana* BUTLER (クロヒカゲ)
- 8) *Lethe ricelis* HEWITSON (ヒカゲチョウ)
- 9) *Neope nipponica* BUTLER (ヤマキマダラヒカゲ)
- 10) *Neope goschkevitschii* MENETRIES (サトキマダラヒカゲ)
- 11) *Micalesis gotama* FRUHSTORFER (ヒメジャノメ)
- 12) *Micalesis francisca* HEWITSON (コジャノメ)
- 13) *Coenonympha oedippus* BUTLER (ヒメヒカゲ)
- 14) *Melanitis phedima* CRAMER (クロコノマチョウ)

Curetidae ウラギンシジミチョウ科

- 1) *Curetis acuta* DE NICEVILLE (ウラギンシジミ)

Danaidae マダラチョウ科

- 1) *Parantica sita* MOORE (アサギマダラ)

Libytheidae テングチョウ科

- 1) *Libythea celtis* FRUHSTORFER (テングチョウ)

Hesperiidae セセリチョウ科

- 1) *Erynnis montanus* BREMER (ミヤマセセリ)
- 2) *Daimio tethys* MENETRIES (ダイミョウセセリ)
- 3) *Choaspes benjaminii* MURRAY (アオバセセリ)
- 4) *Leptalina unicolor* BREMER & CREY (ギンイチモンジセセリ)
- 5) *Aeromachus inachus* MENETRIES (ホシチャバネセセリ)
- 6) *Thoressa varia* MURRAY (コチャバネセセリ)
- 7) *Thymelicus sylvaticus* BREMER (ヘリグロチャバネセセリ)
- 8) *Thymelicus leoninus* BUTLER (スジグロチャバネセセリ)
- 9) *Ochlodes venata* BUTLER (コキマダラセセリ)
- 10) *Ochlodes ochracea* BREMER (ヒメキマダラセセリ)
- 11) *Potanthus flavum* MURRAY (キマダラセセリ)

- 12) *Isoetes lamprospilus* C. & R. FELDER (ホソバセセリ)
 13) *Polytremis pellucida* MURRAY (オオチャバネセセリ)
 14) *Pelopidas jansonis* BUTLER (ミヤマチャバネセセリ)
 15) *Pelopidas mathias* EVANS (チャバネセセリ)
 16) *Parnaraguttata* BREMER & GREY (イチモンジセセリ)

Papilionidae	11
Pieridae	8
Nymphalidae	25
Lycaenidae	34
Satyridae	14
Curatidae	1
Danaidae	1
Libytheidae	1
Hesperiidae	16
Total	111

9科111種の蝶が採集されている、県下に産する蝶116種(迷蝶は除く)の内揖保川流域に産しない種(他の河川流域には産する)は3種である。

Luedorfia japonica LEECH ギフチョウ

Narathura bazalus HEWITSON ムラサキツバメ

Lethe marginalis MOTSCHULSKYクロヒカゲモドキ

上記3種は採集報告はあるが発生期にその採集地を調査しても幼虫の食樹(食草)すら発見出来ないので揖保川流域の蝶としては除いておく。

だが近隣の河川流域に発生地があるので揖保川流域内で新産地が見付かる可能性はある。

ギフチョウは低山地帯よりもむしろ山地性のギフチョウの発生地を捜した方が良いと思われる。なぜならば黒原川の上流部は笠杉山の東方の部落朝来郡朝来町奥田路、神子畑(丸山川流域)で採集されている。倉床川の北方では養父郡大屋町明延で採集されているムラサキツバメとクロヒカゲモドキは相生市三濃山に発生地があるので竜野市西方か新宮町南部を調査すれば見付かる可能性はある。

イシガキチョウは毎年目撃や採集記録が発表されているが土着種としては認めがたい、近県からの飛来蝶であろう。

ベニモンカラスジミ、カラスジミの採集報告も聞いているが確実性に乏しい(採集地で再発見されない)ので省いておく。

Isamu Ozaki 〒763 明石市

兵庫県の蝶雑記 (1)

広畑政己

1. 蝶数種の食草について

国内に生息するチョウの食草はほぼ全種に亘って明らかにされているが、地域によって、獲得している食草も様々で、一概に全国画一とはいかない。たとえばスギタニルリシジミのように、トチノキを食している地域もあれば、キハダ、ミズキのところもあるといった状態である。また、多化性の種においては、季節によっても食草が変化するものもあるが、はっきり解っていない種も多い。そのような訳で、県下においてもたぶんそんなものを食草にしているだろうということではなく、確認し、記録しておく必要があると思うので、数種の食草について次に報告をしておきたい。

(1) ホシミスジ

1983年5月1日に赤穂市春日にて山裾に生えているイブキシモツケで3頭の幼虫を確認した。県下では川西市等でユキヤナギ、コデマリの記録がある。

(2) ウラギンシジミ

1982年5月9日に姫路市広峰山にてフジの新芽より5卵を得ている。フジの花芽、花穂も探したが、卵は見つからなかった。夏から秋にかけてはクズの花で幼虫が見つかるが、フジの花はクズのように花の期間が長くないので新芽に産卵するのではないかと思われる。

(3) サカハチチョウ

本種の食草はコアカソ、ヤブマオなどイラクサ科からの記録があるが、筆者は1981年8月23日に夢前町佐中にて同科のカラムシ属のクサマオに産卵中の本種を観察している。成虫は、クサマオの葉柄に2卵を積み重ねて産卵し飛び去った。クサマオの記録はないようなので報告する。

2. ジャノメチョウ科2種の幼虫の色斑について

ジャノメチョウ科のなかには、同じ種でありながら幼虫の色彩が違うものが数種ある。その中でクロヒカゲ、ヒカゲチョウでそれぞれ2型を観察しているので報告しておきたい。クロヒカゲは、相生市三濃山で同株のケネザサより緑色型、褐色有紋型をそれぞれ1頭得ている。赤西溪谷や加美町でも5頭の幼虫を採集したが、すべて褐色有紋型であった。もう1種のヒカゲチョウは、福崎町神谷で、第3~第5腹節に黄色紋がある幼虫を1頭得ている。また、夢前町菅生閩産の成虫から採卵して得た20数頭の幼虫は、すべて無紋の褐色の幼虫であった。

Masami Hirohuta 〒671-22 姫路市

八重山の蝶類採集記録 その2 (1982)

佐々木 薫

I. はじめに

第1回の八重山採集行は昭和55年の春(55年4月28日より5月6日までの9日間)でその時の採集記録はひろおびNo.6の誌面で報告しておいたが、今回は昭和57年7月30日より8月8日までの10日間夏の八重山諸島へ蝶友の八木弘、入江照夫両氏と採集行した時の記録を報告しておきます。ただし入江氏の採集品については氏の整理ができていないので八木氏と筆者の採集品のみ報告します。(入江氏の採集した蝶の内容も私達2名の採ったものと同じようなものであった)

今回の採集行は7月28日より29日にかけて台風9号が石垣島、西表島を通過し台湾方面に抜け、その後を台風10号が日本の本州を抜けていった、合間を縫って石垣島へ渡るといった悪条件の出発で又採集最終日の8月8日に石垣島を離れる日には台風11号の影響で風が段々と強くなっていく中を逃げるように帰って来たという散々な採集行であった。

II. 日程 (1982年7月30日～8月8日)

7月30日 大阪＝那覇＝石垣島 (13時50分着)
(この後石垣島15時50分発与那国島行飛行機の前予約が台風10号の影響で欠航となり予定を変更し石垣島で採集することにし、川平の民宿大浜荘へ向う。投宿後は天候も悪く風も強いので採集は中止する)
石垣島、川平、大浜荘 (泊)

7月31日 晴時々曇り
川平…於茂登…嵩田…川平
石垣島、川平、大浜荘 (泊)

8月1日 晴
川平…富野…米原…バナナ岳…川平
石垣港、大原ホテル (泊)

8月2日 晴時々曇り
石垣港～西表島、大原港…大富…豊原
…大原…古見…豊原…大富
西表島、大富、竹盛旅館 (泊)

8月3日 晴時々曇り
大富…白浜…星立…古見…大原…大富
西表島、大富、竹盛旅館 (泊)

8月4日 晴
豊原…浦内～カンピラー…中野…大富
西表島、大島、竹盛旅館 (泊)

8月5日 晴
大富…西表島、大原港～石垣島港
…於茂登…川平
石垣島、川平、大浜荘 (泊)

8月6日 晴
川平…石垣島港～竹富島、仲筋～石垣島港
…唐人墓…海洋民族館…川平
石垣島、川平、大浜荘 (泊)

8月7日 晴
川平…米原…バナナ岳…於茂登…嵩田
…バナナ岳…川平
石垣島、川平、大浜荘 (泊)

8月8日 晴後曇り
川平…石垣空港＝那覇＝大阪 (1900着)

(＝航空機、…レンタカー、～船、地名のうちアンダーラインは採集地を示す。)



於茂登山下方のポイントにて
写真左より入江氏、八木氏、小生の今回採集行に同行した三名。



西表島、豊原のポイント

写真②は豊原の放牧場で採集した日には牛を別の場所に移していたので中に入って採集することができた。特にオオゴマダラが多く他にはナミエシロチョウ、ウラナミシロチョウ、タイワンキチョウ、カラスアゲハ、リュウキュウアサギマダラ、スジグロカバマダラ、タテハモドキ、メスアカムラサキ、リュウキュウミスジ、タイワンクロボシジミ、ヤマトシジミ、ヒメウラナミシジミ、等と今回の採集行でただ1頭のシロミスジ♀がここで採れた。

Ⅲ. 採集記録 (採集者・S=佐々木、Y=八木)

アゲハチョウ科 Papilionidae

1. アオスジアゲハ *Graphium sarpedon*
石垣島
於茂登 1 ex 31 VII S
2. ジャコウアゲハ *Byasa alcinous*
石垣島
川平 1 ex 7 VII Y
於茂登 1 ex 7 VII Y
3. ベニモンアゲハ *Pachliopta aristolochiae*
石垣島
川平 5exs 31 VII S : 3exs Y : 2exs
於茂登 1ex 31 VII S
川平 1ex 1 VIII Y
川平 4exs 5 VIII S : 3exs Y : 1ex
川平 1ex 7 VIII Y
西表島
大原 1ex 2 VIII Y
大原 1ex 3 VIII Y

星立 2exs 3 VIII S : 1ex Y : 1ex

4. アゲハ *Papilio xuthus*
石垣島
嵩田 1ex 7 VII S
5. クロアゲハ *Papilio protenor*
西表島
豊原 1ex 2 VIII S
石垣島
嵩田 1ex 7 VII S
6. シロオビアゲハ *Papilio polytes*
竹富島
仲筋 12 exs 6 VIII S : 7exs Y : 5exs
7. カラスアゲハ *Papilio bianor*
石垣島
於茂登 1ex 31 VII S
バナナ岳 1ex 1 VIII S
川平 1ex 5 VIII Y
バナナ岳 1ex 7 VIII S
西表島
大原 1ex 2 VIII Y
豊原 1ex 4 VIII S
8. ツマベニチョウ *Hebomoia glaucippe*
石垣島
嵩田 4exs 7 VII S
9. ナミエシロチョウ *Appiaspaulina*
石垣島
川平 2exs 31 VII Y
於茂登 1ex 31 VII S
川平 11 exs 1 VIII S : 2exs Y : 9exs
バナナ岳 1ex 1 VIII S
川平 1ex 5 VIII S
川平 1ex 6 VIII Y
川平 4exs 7 VIII S : 2exs Y : 2exs
川平 3exs 8 VIII Y
西表島
古見 2exs 2 VIII S
星立 2exs 3 VIII S
豊原 3exs 4 VIII S : 2exs Y : 1ex

10. ウスキシロチヨウ *Catopsilia pomona*

石垣島					
米原	1ex	1	VII	S	
バナナ岳	2exs	1	VII	S : 1ex	Y : 1ex
川平	1ex	5	VII	S	
嵩田	4exs	7	VII	S	
西表島					
豊原	8exs	2	VII	S : 6exs	Y : 2exs
大原	2exs	2	VII	S : 1ex	Y : 1ex
星立	9exs	3	VII	S	
大原	3exs	3	VII	S : 2exs	Y : 1ex
豊原	2exs	4	VII	Y	
竹富島					
仲筋	3exs	6	VII	S	

(ウスキシロチヨウはムモン型とギンモン型の両型が採れ約半がギンモン型でした。)

西表島

豊原	2exs	2	VII	Y	
星立	1ex	3	VII	S	
豊原	4exs	4	VII	Y	

15. タイワンキチヨウ *Eurema blanda*

石垣島					
於茂登	7exs	31	VII	S : 4exs	Y : 3exs
米原	1ex	1	VII	Y	
於茂登	5exs	5	VII	S : 3exs	Y : 2exs
於茂登	1ex	7	VII	Y	
嵩田	2exs	7	VII	S	
川平	1ex	7	VII	S	
西表島					
豊原	3exs	4	VII	S	

マダラチヨウ科 *Danaidae*11. ウラナミシロチヨウ *Catopsiliapyranthe*

石垣島					
川平	1ex	31	VII	S	
川平	1ex	1	VII	Y	
西表島					
豊原	1ex	2	VII	S	
大原	1ex	2	VII	S	
豊原	1ex	4	VII	S	
竹富島					
仲筋	4exs	6	VII	S : 3exs	Y : 1ex

16. リュウキュウアサギマダラ *Radena similis*

石垣島					
川平	18 exs	31	VII	S : 8exs	Y : 10 exs
川平	6exs	1	VII	S : 4 exs	Y : 2exs
米原	1ex	1	VII	S	
川平	3exs	5	VII	S : 2exs	Y : 1ex
川平	2exs	8	VII	Y : 1ex	S : 1ex
西表島					
古見	2exs	2	VII	S	
星立	5exs	2	VII	S	
星立	5exs	3	VII	S	
大原	1ex	3	VII	Y	
竹富島					
仲筋	1ex	6	VII	Y	

12. モンシロチヨウ *Pieris rapae*

石垣島					
川平	2 exs	31	VII	Y	
於茂登	1ex	31	VII	Y	

13. モンキチヨウ *Colias erate*

石垣島					
川平	1ex	31	VII	Y	
西表島					
星立	1ex	3	VII	Y	

14. キチヨウ *Eurema hecabe*

石垣島					
川平	4exs	31	VII	S : 2exs	Y : 2exs
川平	2exs	1	VII	Y	
於茂登	1ex	5	VII	Y	
嵩田	1ex	7	VII	S	

17. カバマダラ *Panlymnas chrysippus*

石垣島					
川平	2exs	31	VII	Y	
西表島					
古見	1ex	2	VII	S	
星立	6exs	3	VII	S : 5exs	Y : 1ex

18. スジグロカバマダラ *Salatura genutia*

石垣島					
川平	10exs	31	VII	S : 6exs	Y : 4exs
川平	6exs	1	VII	S	
於茂登	3exs	5	VII	S	
川平	1ex	8	VII	Y	

川平	1ex	8	VII	Y		
西表島						
豊原	3exs	2	VII	S : 2exs	Y : 1ex	
古見	2exs	2	VII	S		
星立	5exs	3	VII	S : 4exs	Y : 1ex	
古見	2exs	3	VII	S : 1ex	Y : 1ex	
大原	1ex	3	VII	Y		
豊原	2exs	4	VII	S		
竹富島						
仲筋	1ex	6	VII	Y		

19. オオゴマダラ *Idea leuconoe*

石垣島						
川平	10 exs	31	VII	S : 1ex	Y : 9exs	
川平	11 exs	1	VII	S : 4exs	Y : 7exs	
川平	2exs	5	VII	S		
川平	2exs	8	VII	S : 1ex	Y : 1ex	
西表島						
大富	1ex	3	VII	S		
古見	1ex	3	VII	Y		
豊原	24 exs	4	VII	S : 20 exs	Y : 4exs	

タテハチヨウ科 *Nymphalidae*

20. ヒメアカタテハ *Vanessa cardui*

石垣島						
川平	3exs	31	VII	Y		
西表島						
大原	1ex	2	VII	Y		
大原	1ex	3	VII	Y		

21. ルリタテハ *Kaniska canace*

石垣島						
於茂登	1ex	31	VII	S		
川平	1ex	5	VII	S		

22. タテハモドキ *Precis almana*

石垣島						
川平	7exs	31	VII	S : 4exs	Y : 3exs	
川平	3exs	1	VII	S : 1ex	Y : 2exs	
富野	4exs	1	VII	S : 2exs	Y : 2exs	
米原	2exs	1	VII	S		
バナナ岳	1ex	1	VII	S		
川平	1ex	5	VII	S		
川平	2exs	6	VII	Y		
米原	2exs	7	VII	Y		

西表島

星立	2exs	3	VII	S		
古見	1ex	3	VII	S		
豊原	4exs	4	VII	S : 2exs	Y : 2exs	
竹富島						
仲筋	1ex	4	VII	S		

23. アオタテハモドキ *Precis orithya*

石垣島

川平	5exs	31	VII	S : 4exs	Y : 1ex	
川平	3exs	1	VII	S : 1ex	Y : 2exs	
米原	2exs	1	VII	S		
川平	2exs	6	VII	Y		
米原	1ex	7	VII	Y		
西表島						
豊原	1ex	2	VII	S		
古見	1ex	2	VII	S		
古見	2exs	3	VII	S		
豊原	1ex	4	VII	Y		

24. メスアカムラサキ *Hypolimnas misippus*

石垣島

川平	6exs	31	VII	S : 3exs	Y : 3exs	
川平	2exs	1	VII	Y		
米原	2exs	1	VII	Y		
嵩田	1ex	7	VII	S		
西表島						
豊原	17 exs	2	VII	S : 14 exs	Y : 3exs	
大原	2exs	2	VII	Y		
古見	1ex	2	VII	S		
大富	2exs	3	VII	S		
星立	1ex	3	VII	S		
古見	2exs	3	VII	S		
大原	1ex	3	VII	Y		
豊原	10 exs	4	VII	S : 5exs	Y : 5exs	
大富	5exs	5	VII	Y		

25. リュウキュウムラサキ *Hypolimnas bolina*

石垣島

川平	1ex	1	VII	S		
西表島						
古見	1ex	3	VII	S		

26. ヤエヤマイチモンジ *Athyma selenophora*

西表島

カンピラ 3exs 4 VII S

石垣島
於茂登 1ex 5 VII S

27. ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius*

石垣島
川平 5exs 31 VII S : 1ex Y : 4exs
川平 2exs 1 VIII S : 1ex Y : 1ex
川平 1ex 5 VIII S
竹富島
仲筋 1ex 6 VIII Y

28. イシガケチヨウ *Cyrestis thyodamas*

石垣島
米原 1ex 1 VIII S
西表島
星立 1ex 3 VIII Y

29. リュウキュウミスジ *Neptis hylas*

石垣島
川平 1ex 31 VII S
嵩田 1ex 31 VII S
川平 1ex 5 VIII S
於茂登 1ex 5 VIII S
川平 1ex 5 VIII Y
西表島
大原 1ex 2 VIII S
豊原 3exs 4 VIII S

30. シロミスジ *Athyma perius*

西表島
豊原 1ex 4 VIII S

ジャノメチヨウ科 *Satyridae*

31. ウスイロコノマチヨウ *Melanitis leda*

西表島
古見 1ex 2 VIII S
大富 1ex 3 VIII S
石垣島
於茂登 1ex 5 VIII S
米原 1ex 7 VIII S

32. マサキウラナミジャノメ *Ypthima masakii*

石垣島
於茂登 2exs 31 VII S

シジミチヨウ科 *Lycaenidae*

33. イワカワシジミ *Deudorix eryx*

西表島
中野 12exs 4 VII S : 幼虫 8exs
石垣島 2exs
Y : 幼虫 2exs
パンナ岳 1ex 7 VIII S : 蛹 1ex

34. ヤマトシジミ *Zizeeria maha*

石垣島
川平 11exs 31 VII S : 2exs Y : 9exs
於茂登 6exs 31 VII S : 1ex Y : 5exs
川平 7exs 1 VIII S : 6exs Y : 1ex
パンナ岳 3exs 1 VIII S :
於茂登 3exs 5 VIII S
川平 1ex 5 VIII S
米原 1ex 5 VIII S
嵩田 1ex 7 VIII S
西表島
星立 1ex 3 VIII S
豊原 6exs 4 VIII S
竹富島
仲筋 1ex 6 VIII Y

35. ハマヤマトシジミ *Zizeeria knysna*

竹富島
仲筋 2exs 6 VIII Y

36. シルビアシジミ *Zizina otis*

石垣島
川平 12exs 31 VII S : 1ex Y : 11exs
川平 24exs 1 VIII S
川平 3exs 6 VIII Y
西表島
星立 1ex 3 VIII Y

37. ヤクシマルリシジミ *Celastrina puspa*

石垣島
川平 1ex 31 VII S

38. タイワンクロボシシジミ *Megisba malaya*

石垣島

- | | | | | | | | |
|---|--------|----|---|------------|----------|--|--|
| 川平 | 3ex | 31 | Ⅶ | S : 2exs | Y : 1ex | | |
| 於茂登 | 2exs | 31 | Ⅶ | S | | | |
| パンナ岳 | 1ex | 1 | Ⅷ | Y | | | |
| 於茂登 | 4exs | 5 | Ⅷ | S | | | |
| 川平 | 1ex | 6 | Ⅷ | Y | | | |
| 川平 | 3exs | 7 | Ⅷ | S | | | |
| 西表島 | | | | | | | |
| 豊原 | 4exs | 2 | Ⅷ | Y | | | |
| 豊原 | 2exs | 4 | Ⅷ | S | | | |
| 中野 | 1ex | 4 | Ⅷ | S | | | |
| 39. ウラナミシジミ <i>Lampides boeticus</i> | | | | | | | |
| 石垣島 | | | | | | | |
| 川平 | 1ex | 31 | Ⅶ | S | | | |
| 西表島 | | | | | | | |
| 豊原 | 2exs | 2 | Ⅷ | S | | | |
| 星立 | 2exs | 3 | Ⅷ | S : 1ex | Y : 1ex | | |
| 40. オジロシジミ <i>Euchrysops cnejus</i> | | | | | | | |
| 石垣島 | | | | | | | |
| 於茂登 | 2exs | 31 | Ⅶ | Y | | | |
| 川平 | 5exs | 1 | Ⅷ | S : 3exs | Y : 2exs | | |
| パンナ岳 | 1ex | 1 | Ⅷ | Y | | | |
| 川平 | 1ex | 8 | Ⅷ | Y | | | |
| 西表島 | | | | | | | |
| 豊原 | 2exs | 2 | Ⅷ | S | | | |
| 大富 | 1ex | 3 | Ⅷ | S | | | |
| 星立 | 8exs | 3 | Ⅷ | S : 3exs | Y : 5exs | | |
| 古見 | 1ex | 3 | Ⅷ | S | | | |
| 豊原 | 3exs | 4 | Ⅷ | S | | | |
| 竹富島 | | | | | | | |
| 仲筋 | 6exs | 6 | Ⅷ | Y | | | |
| 41. ルリウラナミシジミ <i>Jamides bochus</i> | | | | | | | |
| 石垣島 | | | | | | | |
| 川平 | 11 exs | 5 | Ⅷ | S : 2exs | Y : 9exs | | |
| 川平 | 12 exs | 6 | Ⅷ | S : 10exs | Y : 2exs | | |
| 米原 | 1ex | 7 | Ⅷ | S | | | |
| 川平 | 16 exs | 7 | Ⅷ | S : 13 exs | Y : 3exs | | |
| 川平 | 3exs | 8 | Ⅷ | Y | | | |
| 42. アマミウラナミシジミ <i>Nacaduba kurava</i> | | | | | | | |
| 石垣島 | | | | | | | |
| 川平 | 3exs | 31 | Ⅶ | S : 1ex | Y : 2exs | | |
| 於茂登 | 1ex | 31 | Ⅶ | S | | | |
| 川平 | 1ex | 1 | Ⅷ | S | | | |
| パンナ岳 | 3exs | 1 | Ⅷ | S | | | |
| 於茂登 | 1ex | 5 | Ⅷ | S | | | |
| 川平 | 1ex | 6 | Ⅷ | Y | | | |
| 西表島 | | | | | | | |
| カンピラ | 4exs | 4 | Ⅷ | S : 3exs | Y : 1ex | | |
| 43. ヒメウラナミシジミ <i>Prosotas nora</i> | | | | | | | |
| 石垣島 | | | | | | | |
| 於茂登 | 6exs | 31 | Ⅶ | S : 5exs | Y : 1ex | | |
| パンナ岳 | 1ex | 1 | Ⅷ | Y | | | |
| 米原 | 3exs | 7 | Ⅷ | Y | | | |
| 於茂登 | 2exs | 7 | Ⅷ | S | | | |
| 川平 | 1ex | 8 | Ⅷ | Y | | | |
| 西表島 | | | | | | | |
| 豊原 | 10 exs | 4 | Ⅷ | S | | | |
| セセリチョウ科 <i>Hesperiidae</i> | | | | | | | |
| 44. オキナワビロードセセリ <i>Hasora chromus</i> | | | | | | | |
| 西表島 | | | | | | | |
| 古見 | 3exs | 2 | Ⅷ | S | | | |
| 石垣島 | | | | | | | |
| 川平 | 1ex | 5 | Ⅷ | S | | | |
| 45. タイワンアオバセセリ <i>Badamia exciamationis</i> | | | | | | | |
| 西表島 | | | | | | | |
| カンピラ | 1ex | 4 | Ⅷ | S | | | |
| 46. コウトウシロシタセセリ <i>Tagiades trebellius</i> | | | | | | | |
| 西表島 | | | | | | | |
| カンピラ | 2exs | 4 | Ⅷ | S : 1ex | Y : 1ex | | |
| 47. クロセセリ <i>Notocrypta curvifacia</i> | | | | | | | |
| 石垣島 | | | | | | | |
| 川平 | 1ex | 31 | Ⅶ | S | | | |
| 48. ネットタイアカセセリ <i>Talicata colon</i> | | | | | | | |
| 石垣島 | | | | | | | |
| 川平 | 1ex | 31 | Ⅶ | S | | | |
| 川平 | 1ex | 1 | Ⅷ | Y | | | |
| 於茂登 | 1ex | 5 | Ⅷ | Y | | | |
| 川平 | 2exs | 5 | Ⅷ | S | | | |
| 49. クロボシセセリ <i>Suastus gremius</i> | | | | | | | |
| 石垣島 | | | | | | | |
| 川平 | 1ex | 31 | Ⅶ | S | | | |
| 於茂登 | 1ex | 31 | Ⅶ | Y | | | |

川平	20 exs	1 VIII	S : 4exs	Y : 16 exs
川平	2exs	5 VIII	S	
川平	9exs	7 VIII	S : 1ex	Y : 8exs
川平	2exs	8 VIII	Y	
西表島				
古見	2exs	3 VIII	Y	

50. トガリチャバネセセリ *Pelopidas agna*

石垣島				
於茂登	2exs	31 VIII	S	
於茂登	1ex	5 VIII	S	
川平	1ex	5 VIII	S	
嵩田	1ex	7 VIII	S	
川平	1ex	7 VIII	S	
西表島				
豊原	1ex	2 VIII	S	
星立	1ex	3 VIII	S	

51. ユウレイセセリ *Borbo cinnara*

石垣島				
川平	1ex	31 VII	Y	
川平	2exs	1 VIII	Y	
於茂登	6exs	5 VIII	S : 2exs	Y : 4exs
川平	2exs	5 VIII	S	
嵩田	2exs	7 VIII	S : 1ex	Y : 1ex
西表島				
大富	2exs	2 VIII	Y	
豊原	5exs	4 VIII	Y	

52. ヒメイチモンジセセリ *Parnara naso*

石垣島				
川平	1ex	31 VII	S	
川平	3exs	1 VIII	S : 2exs	Y : 1ex
米原	1ex	7 VIII	S	

53. チャバネセセリ *Pelopidas mathias*

石垣島				
於茂登	1ex	31 VII	Y	
於茂登	1ex	5 VIII	S	
米原	1ex	7 VIII	Y	
川平	1ex	7 VIII	Y	

以上今回の採集行では八木弘氏と小生とで7科53種747頭を採集することが出来た。

Ⅲ 採集後記

この報文を書きはじめたのは59年1月31日での日は兵庫県南部に大雪警報が出され、この地方としては記録的な大雪に見舞われた時に夏の八重山採集記を書いている自分がなんととも珍妙に思えて一人苦笑いしてしまった。

はじめに書いたように今回の採集行は台風9号と10号の合間を縫っての出発となり、そのため当初計画していた与那国島へも石垣島からの飛行機が欠航しやむなくその分を石垣島で採集することから今回の採集は開始されたが、55年の春に採集行した時と比較してみても夏の採集行がいかに悪いかと言うことを各種別に述べてみたい。

※春に沢山採集できたか、多くの目撃ができた種類で夏の採集行では全くと言ってよい程その姿を目撃することのできなかった種類。

(○印は9日間の採集行で2~4頭程度は目撃できた種類を示す。

×印は同期間中全く姿をみなかった種類を示す。)

1. アゲハチョウ科

- ジャコウアゲハ、アオスジアゲハ、クロアゲハアゲハ
 - × ミカドアゲハ、シロオピアゲハ
- (但しシロオビは石垣島、西表島で目撃できなかったが、竹富島では沢山目撃することができ、採集もできた。春には竹富島へは渡島しなかった。)

2. シロチョウ科

- モンシロチョウ
- × カワカミシロチョウ

3. マダラチョウ科

- × アサギマダラ
- (本種は春にも少なく春夏を通じてあまり目撃できなかった。)

4. タテハチョウ科

- イシガケチョウ、ルリタテハ
- × アカタテハ

5. ジャノメチョウ科

- ウスイロコノマチョウ、マサキウラヤミジャノメ
チョウ
- × シロオビヒカゲ、ヤエヤマウラナミジャノメ、
リュウキュウヒメジャノメ
(夏の採集行ではジャノメチョウ科の姿は全般的
に個体数が少なく春とは対象的であった。)

6. シジミチョウ科

- ウラナミシジミ、アマミウラナミシジミ、ヒメ
ウラナミシジミ
- × ウラギンシジミ、リュウキュウウラボシシジミ
(リュウキュウウラボシは春も少なかった)
○印については3~4頭程度ではなく目撃も採
集も出来たが春には非常に沢山の目撃が出来た
のでその差が著しく異っていた。

7. セセリチョウ科

- クロセセリ、タイワンアオバセセリ、ネッタ
イアカセセリ (ネッタイアカセセリは7~8頭の
目撃しか出来なかったが春には沢山、目撃が
出来た)
- × オオシロモンセセリ、テツイロピロードセセリ
(テツイロは春にも多くなかった)

◆春に少なく夏に個体数の多かった種類

1. アゲハチョウ科

なし

2. シロチョウ科

ウスキシロチョウ (春は全く目撃出来なかった)

3. マダラチョウ科

なし

4. タテハチョウ科

メスアカムラサキ、リュウキュウムラサキ (春に
は全く目撃出来なかったが夏にはかなりの個体を

目撃出来た)

ヤエヤマムラサキ (春には全く夏には1頭のみ目撃
出来た)

5. ジャノメチョウ科

なし

6. シジミチョウ科

シルビアシジミ

7. セセリチョウ科

クロボシセセリ、コウトウシロシタセセリ (春に
は目撃出来なかったが夏には3頭目撃出来た)

★参考文献

岩村 巖：八重山の蝶

ひろおびNo.6

佐々木薫：八重山の蝶類採集記録 (1980)

ひろおびNo.6

八木 弘：八重山諸島に蝶を訪ねて

ひろおびNo.6

KAORU SAKAKI 〒678 相生市

アサギマダラの
移動調査について

近藤 伸一

アサギマダラの移動調査は、近年各地で行なわれて
おり、離れた場所で標式虫が採集され、移動の状況が
少しずつ解明されつつある。淡路島の南部にある輪鶴山の標高600mの山頂付近
には、毎年8月下旬になるとアサギマダラが集まる。
1983年8月21日当地を訪れたが、この年は数が少なく
わずかに17♂5♀ではあったが、マーキングして放し
た。今後も継続して行う予定なので、もし採集された
方があれば連絡いただきたい。前翅には「ヒメジS.
K.」後翅に番号を記入している。

Shinichi Kondo 神戸市

八重山の蝶感想記

八木 弘

I はじめに

1980年4月28日から5月5日まで初めて八重山諸島を訪ねて八重山の蝶との出会いに限りなく喜びを感じずる日々を送り、機会あれば季節を変えもう一度訪ねてみたいものだと思っていた。その機会を得て、1982年7月30日より8月8日までの予定で蝶友の、佐々木氏夫妻、入江氏と共に真夏の八重山へ大阪空港より7月30日、9:25発ANA 101F便で採集の旅へ!!

II. 旅程

7月30日	ANA 11:30着 大阪 → 沖繩	SWAL 13:55着 611F → 石垣	SWAL 16:30着 109F → 与那国	
	9:25発 101F	12:55発 611F	15:50発 109F	与那国 2泊
7月1日	与那国 SWAL 17:20着 710F → 石垣空港	石垣港	石垣港	1泊
	16:45発			
7月2日	石垣港 高速艇 9:45 西表島		大 富	3泊
7月5日	西表島 ウォータージット 石垣港		川 平	3泊
7月8日	石垣空港 SWAL 14:40 642F → 沖繩	ANA 17:55 106F → 大阪		
	16:00			

上記の旅程表の如く今回は与那国島まで足を伸ばしてみたいものと計画しましたが、台風通過後の強風のため、石垣発15:50与那国行きSWAL 709F便欠航のアクシデントに見舞われ与那国行きを断念せざるを得ず、不本意な結果となり予定を変更する。

石垣→西表→石垣→竹富→石垣の採集行となりました。今回の採集日程、採集地、採集記録等の詳細については重複するのをさけて同行の佐々木氏に一括報告して戴き、感想の一端のみを記します。

III 真夏の八重山

八重山の夏場は蝶が豊富であろうと漠然と思い込んでいた私は、極端に少ない蝶相にただ愕然とするのみ我身の不勉強がくやまれる。毎年この様な状態なのであるか。本年は特別なのか。それとも台風通過後の故なのであるか知るよしもないが、いずれにしても夏場の八重山は蝶採集の好期ではないようだ。

この様に総体的に少ないなかで、1980年4月下旬か

ら5月上旬にかけての採集行では局部的発生であろうと思っていたメスアカムラサキが分布も広く個体数も意外と多い。今回は採集の時期が少し早かったのであろう。尚、意外に思えたのは当然各地で見られるはずの蝶が局部的な発生になっていた事である。

1980年4月下旬から5月上旬の採集時には各地で見られたリュウキュウアサギマダラや、無数に乱舞していたスジグロカバマダラ等の普通種が、川平地区では多数発生しているのに他地区ではまれにしか見かけられない。また、シロオビアゲハは石垣島、西表島では全然見かけられないのに竹富島では多数発生し、ハイビスカスの花に群れていた。

これらの現象は5月上旬頃に各地で同時発生を見てもその後、化性を重ねる内に各々の棲息地の地形環境の僅かな差異によって幼虫の発育に遅延を生じ、発生の時期にばらつきが出来るのであろう。

もしそうだとすればそのことが全島的な端境期をなくし蝶屋に幸いし季節を通じ何時でもどこかで僅かでも採集出来る事になる。但し例外もある。分布も広く個体数の多い、イシガケチョウは完全な端境期らしく全然見かけられない。干立で古ぼけた1exを採集したのみである。

岩村氏の採集記録では8月中旬には各地でイシガケチョウを採集した事が記されていることから8月中旬以降では各地でその姿が見られるのであろう!!

IV 於茂登岳に失望

好採集地とされる於茂登岳には大いなる期待をかけた。ルリウラナミシジミ、コウトウシロシタセリなど多数採集出来る事と夢みていた。その期待は見事打ち破られる結果となる。

同行の入江氏(1981年11月)の石垣島晩秋の採集記播磨蝶友会誌 ひろおび No.6 P.24の一節を借りれば於茂登岳中腹名蔵湾の見渡せる三叉路まで来た頃より風強く、ツベニチョウ、カラスアゲハ、クロアゲハ等大型の蝶が飛ぶと言うより風に流れ次々と横切っていく。

名蔵湾の方へと下る道筋。貝殻色をあたり一面に振りまく、ルリウラナミシジミ、テリトリーを守るため追尾を繰り返し又元の場所へ戻る、コウトウシロシタ

セセリ、交尾したまま飛翔する、メスアカムラサキ、ネットを振るのも嫌になる程の、スジクロカバマダラ等々……1982年8月7日名蔵湾が見渡せる上文の三叉路より、ルリウラナシジミ、コウトウシロシタセセリなどの採集を期待し同行の入江氏と共に嵩田植物園に至る同じ道筋を約2.5キロ約1時間をかけての採集行で採集出来たのは、タイワンキチョウ 2 exs、ジャコウアゲハ 1 ex の三頭のみ。他に蝶影も見ず、入江氏の一文がまったく嘘の様だ。暑さひとしお身にしむ。嵩田植物園で喰放題400円のパンで渴をいやす。

注 於茂登で全然見かけられなかった、ルリウラナシジミが川平では多数発生していた。

コウトウシロシタセセリは、西表島カンピラーで発生していた。

V 失敗記 ハマヤマトシジミを見逃す

不勉強のため何時も失敗を重ねている。今回の採集行では、ハマヤマトシジミを見逃す失敗を繰り返す。今回ハマヤマトシジミの採集も目標の一つであった。

7月31日、川平で、シルビアシジミを採集し、ハマヤマトシジミを採集したものと思ひ込む。

8月6日、竹富島を訪ねた際、ハマヤマトシジミを発見しながらすでに、川平で10数頭採集しているとの安心感で分布の確証のためにと2頭採集し深追いせず見逃してしまう。

帰省後蝶友H氏から、川平で採集したものは総てシルビアシジミである事を指摘される。蝶友に進呈してもと残しておいた数頭を慌てて調べ竹富島採集の2頭のみがハマヤマトである事が判明、2頭だけでもハマヤマトであった事がせめてもの慰めではあるが、それと知っておれば、かなり採集出来たものをとくやまれる。

シルビアシジミの八重山産は本土産に比べ一廻り小さく、ハマヤマトと大きさ色合も類似し採集中の織別は容易ではない。それにしてもうかつな話である。

VI 好採集地紹介

1980年5月上旬、1982年8月上旬の二度の調査では不十分で真相など知る由もなく好採集地の多い八重山で好採集地として紹介するなど無謀の誹をうけるとは思いますが何かの参考になればと思ひ二度の体験と知見の範囲内に於て自分なりに好採集地とおぼしき所を石垣島、西表島、各々一つを選びあえて紹介してみます。

1. 石垣島 川平

石垣島随一の景勝地川平は石垣港からバス川平西回り一周線で40分、川平湾に臨んで真白な砂浜が開け、エメラルドグリーンの海には小島が散在している。まるで絵に描いた様な美しさである。

夏場には本土より押しよせるヤング連で民宿はふくれあがっている。

この景勝地川平はまた蝶の好採集地でもある。部落を中心に周囲2.5キロ程の小範囲に多数の棲息を見る事が出来る。海岸沿いに帯状に残る原生林の道筋の花には多種の蝶が吸蜜に集まる。

特に川平の魅力は、ベニモンアゲハ、ナミエシロチョウ、アオタテハモドキ、ルリウラナシジミ等が多産し、石垣島では珍しい、カワカミシロチョウも採集出来る。1973年以降八重山で採集され始めたといわれる、クロボシセセリも多産する事などである。

今回の採集行で小生の採集した40種中30種はこの川平で採集出来た。

川平採集30種の種名は、佐々木氏発表の採集記録を参照下さい。

2. 石垣島川平棲息確認蝶

1974年8月12日 採集 岩村氏

1980年5月上旬 採集 佐々木氏 八木

1981年11月上旬 採集 入江氏

1982年7月下旬～8月上旬採集佐々木 入江 八木

上記播磨蝶友会員3氏の協力のもと四度の川平採集行の結果、棲息の確認された蝶について報告します。

セセリチョウ科 10種

- | | |
|---------------|--------------|
| 1 オキナワビロウドセセリ | 2 ユウレイセセリ |
| 3 オオシロモンセセリ | 4 チャバネセセリ |
| 5 タイワンアオバセセリ | 6 ヒメイチモンジセセリ |
| 7 トガリチャバネセセリ | 8 クロセセリ |
| 9 ネットタイアカセセリ | 10 クロボシセセリ |

アゲハチョウ科 6種

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 ベニモンアゲハ | 2 ジャコウアゲハ |
| 3 シロオビアゲハ | 4 クロアゲハ |
| 5 カラスアゲハ | 6 アオスジアゲハ |

シロチョウ科 9種

- | | |
|-------------|------------|
| 1 キチョウ | 2 タイワンキチョウ |
| 3 モンシロチョウ | 4 モンキチョウ |
| 5 ツマベニチョウ | 6 ナミエシロチョウ |
| 7 カワカミシロチョウ | 8 ウスキシロチョウ |
| 9 ウラナミシロチョウ | |

マダラチョウ科 4種

- 1 カバマダラ 2 スジグロカバマダラ
- 3 リュウキュウアサギマダラ 4 オオゴマダラ

シジミチョウ科 9種

- 1 ルリウラナミシジミ 2 オジロシジミ
- 3 アマミウラナミシジミ 4 ヤマトシジミ
- 5 タイワンクロボシシジミ 6 ヒメウラナミシジミ
- 7 ヤクシマルリシジミ 8 シルビアシジミ
- 9 ウラナミシジミ

タテハチョウ科 11種

- 1 ヤエヤマイチモンジ 2 ルリタテハ
- 3 ツマグロヒョウモン 4 ヒメアカタテハ
- 5 リュウキュウミスジ 6 アオタテハモドキ
- 7 タテハモドキ 8 アカタテハ
- 9 リュウキュウムラサキ 10 イシガケチョウ
- 11 メスアカムラサキ

以上49種

ジャノメチョウ科は皆無となっている。ジャノメチョウ科は西表島と比し局所的で個体数も少ない様に思う。それにしても川平で皆無とは考えられない。調査不十分の故と思う。

上記は部落を中心に海岸より平地部を主とした調査に終り部落南側の山地部の調査も含め綿密に調査すれば少なくとも55~56程度の棲息が確認されるであろう。

2. 西表島 豊原地区

豊原は西表島西端の部落で1980年頃までは部落から西に通ずる道路もなく、西表島を訪ねる人々も大原港から白浜間の定期バスを利用し西端の豊原地区に足を踏み込む事も少なかった様で、蝶相についても未調査地区であろう。

現在は大原港から道路も整備され豊原部落から西方へ数キロは車を走らせる事も出来る。

4~5年前までは西表島にはレンタカーもなかったが、現在は大原港にレンタカーもあり、豊原地区の採集も容易となったので西表島を訪れる愛蝶家にお勧めしたい地区である。

大原港から西へ2キロ、このあたりから豊原で右手は山がせまり左手は道路にそって広々と畑地が続き畑地の向側には原生林が残り、畑地の周辺は、カバマダラ、メスアカムラサキ、タテハモドキ、クロセセリ、ウスイロコノマチョウ等が棲息し、原生林を抜ける道筋はオオシロモンセセリ、ベニモンアゲハ、カワカミシロチョウ、イシガケチョウ等種々の蝶が棲息し、500米程先の部落民家周辺は、ウスキシロチョウ、メスア

カムラサキが多産し、ウスイロコノマチョウなども見かけられる。

今回は道路が整備されていたので初めて部落西方へと車を走らせてみる。5~6分走った所で左手に、なだらかな丘と小山の間が少し開け放牧場らしき草原の上空を埋める、オオゴマダラの大集団に出会う。

5~6頭ずつ列をなし各所で風に流れる如く、或は編隊をなし大空せましと群れ飛ぶ様は優雅を越え壮観と言うべきか。その数100をはるかに越えるであろう!!

川平ですでに10数頭採集していたのでこの壮観を乱すに忍びず、ネットを立てただ傍観するのみ。

佐々木、入江両氏は数頭ずつ採集した様である。誰れ言うことなくこの地をオオゴマダラの森と名付ける。

佐々木氏はこの地で、シロミスジを採集した。アオタテハモドキ、タテハモドキ等も見かけられ、種名さだかでないが、シジミ蝶が樹間でチラついている。

時間をかけて調査してみたい所であるが、当日はカンピラー滝を訪ねる予定のため早々と引きあげる。

豊原地区棲息確認蝶

1980年 4月下旬~5月上旬 採集 佐々木 八木

1982年 8月上旬 採集 佐々木 入江 八木

只二度の調査で豊原地区の蝶相の全ぼうなど知る由もないが、この地方が未調査地区と考えられますので佐々木、入江両氏の協力を得て現在確認された種名を報告致します。

セセリチョウ科 7種

- 1 タイワンアオバセセリ 2 クロセセリ
- 3 トガリチャバネセセリ 4 ユウレイセセリ
- 5 ヒメイチモンジセセリ 6 オオシロモンセセリ
- 7 ネットアイアカセセリ

アゲハチョウ科 4種

- 1 ベニモンアゲハ 2 ジャコウアゲハ
- 3 カラスアゲハ 4 クロアゲハ

シロチョウ科 7種

- 1 ウラナミシロチョウ 2 カワカミシロチョウ
- 3 ウスキシロチョウ 4 モンシロチョウ
- 5 タイワンキチョウ 6 ナミエシロチョウ
- 7 キチョウ

マダラチョウ科 5種

- 1 スジグロカバマダラ 2 カバマダラ
- 3 リュウキュウアサギマダラ 4 アサギマダラ

5 オオゴマダラ

シジミチョウ科 6種

- 1 ウラギンシジミ
- 2 ヤマトシジミ
- 3 ヒメウラナミシジミ
- 4 オジロシジミ
- 5 タイワンクロホシシジミ
- 6 ウラナミシジミ

タテハチョウ科 7種

- 1 メスアカムラサキ
- 2 ツマグロヒョウモン
- 3 リュウキュウミスジ
- 4 タテハモドキ
- 5 アオタテハモドキ
- 6 シロミスジ
- 7 イシガケチョウ

ジャノメチョウ科 3種

- 1 ヒメジャノメ
 - 2 ウスイロコノマチョウ
 - 3 マサキウラナミジャノメ
- 以上39種

上記の通りであります。至って粗雑な調査の範囲であり綿密に調査すれば50種程度は棲息しているものと思う。

あとがき

期待していた夏場の蝶の意外に少ないのには驚きであった。八重山の蝶相は、春夏秋を通じての観察調査でなければ到底把握し得ない事を痛感させられる採集行であった。9月中旬～10月中旬にかけての最盛期にもう一度訪ねてみたいものである。

参考文献

- 岩村 巖 播磨蝶友会誌 ひろおび No 6
八重山の蝶 P 1～P 14
- 佐々木薫 播磨蝶友会誌 ひろおび No 6
八重山の蝶類採集記 P 15～P 23
- 入江照夫 播磨蝶友会誌 ひろおび No 6
石垣島晩秋の採集記 P 24～P 25

HIROSHI YAGI 〒678 相生市

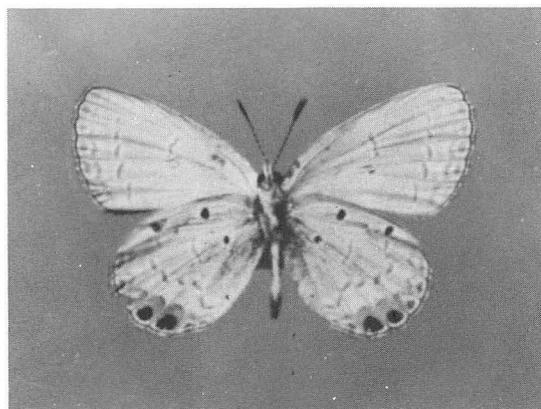
石垣島の

台湾ツバメシジミ

入江 照 夫

ひろおびNo 6の「石垣島晩秋の採集記」で、台湾ツバメシジミの採集記録を報告したが、データが不十分であったため、写真を添えここにあらためて報告しておきたい。

1981年11月7日、石垣島川平で採集した1頭のみの個体ではあるが、写真でも判別出来るように、後翅裏面の黒点も大きく鮮明にでている。



オオウラギンヒョウモン

1776卵を産卵

近藤 伸 一

兵庫県養父郡関宮町東鉢伏にて1983年9月23日採集したオオウラギンヒョウモンの♀が、9月24日から11月9日にかけて、1776卵という多数を産卵した。成虫は、透明のプラスチックの容器の内側をネットでおおい、中にスミレと枯葉を入れて飼育した。エサにはカルピスをうすめて、一日1回与えた。10月末になると気温が低下して、日中以外は不活発となり、エサを与える時はあらかじめ電燈で温度を上昇させた。11月1日から11月9日の間に産卵した1721卵目から1776卵目までの56卵についての孵化の状況は、1984年1月8日では、3月20日で12を数え受精卵であることも確認出来た。

Shinichi Kondo

〒674 神戸市

ナガサキアゲハの雌雄型

入江 照 夫

沖縄で採集したナガサキアゲハの♀より採卵し飼育した個体の中に雌雄型が羽化したので報告する。全体的に♂の特徴を示し一様に黒色で藍色の光沢鱗を散布しているが、左前翅に♀特有の三角形の紅色紋と、左右後翅に白色斑を有した同体形である。

〔採集〕

58年5月15日、沖縄本島伊豆味から古嘉津尾へ向う道中のミカン園で採集した新鮮な♀であり後翅7室まで白斑が現れた比較的白化された個体で出合頭に目の前に現れた時は一瞬心臓が止まったのではないかと思った程であった。

〔産卵〕

30℃の沖縄本島を急ぎ南下し、予定を変更してその日のうちに帰宅した。

5月19日より5月23日の5日間で140余卵を産卵した。

約100卵を友人に託し、自宅で約50卵を孵化させた。

〔羽化までの過程〕

卵期



5月19日～5月23日

幼虫期



5月23日～6月28日

蛹期



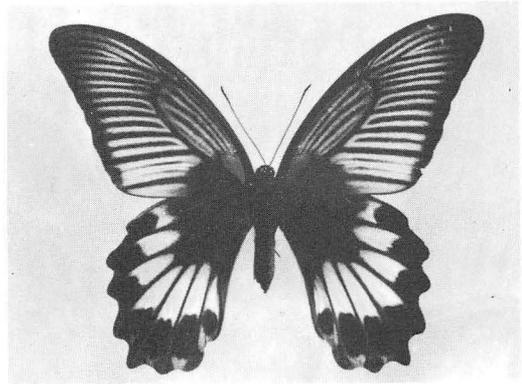
6月18日～6月30日

羽化期

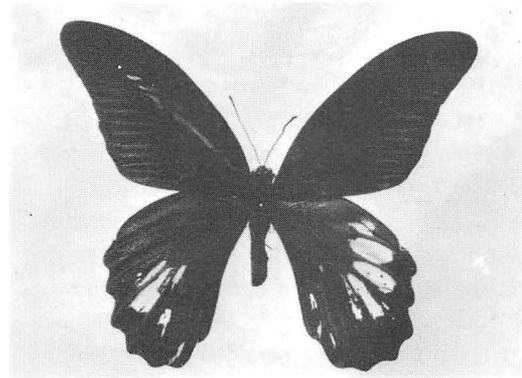


7月3日～7月17日

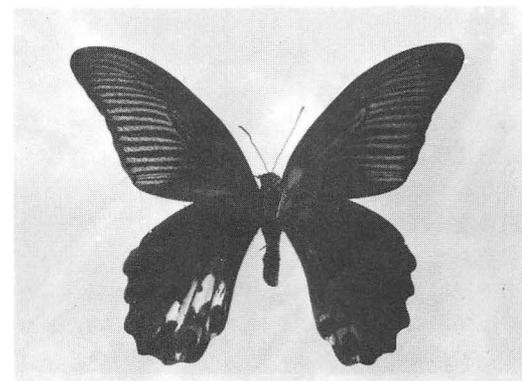
雌雄同体の個体は6月30日の蛹化、7月17日の羽化で最長の飼育期間のものであり、140余卵中異常型のもは1頭のみであった。



母蝶と酷似の♀ S 58.7.12羽化



雌雄同体型 表 S 58.7.17羽化

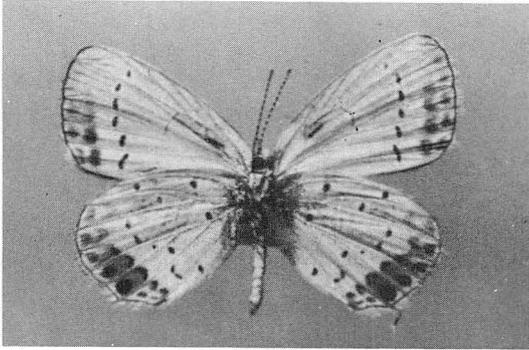


雌雄同体型 裏

TERUO IRIE 〒678 相生市

石垣島でツバメシジミ採集

八木 弘



1982年7月30日より8月8日まで2回目の八重山の蝶採集行で7月31日石垣島川平部落で偶然新鮮なツバメシジミ♂個体1頭を採集しましたので報告致します。

本種は奄美大島以南の離島には棲息していない種とされている。採集した時にはまさか石垣島でツバメシジミが採集出来様など夢にも思わなかったので、タイワンツバメシジミを採集したものと早合点した。

タイワンツバメシジミも沖縄本島までで八重山には棲息していないとされている。

今回同行した入江氏が1981年11月上旬に石垣島でタイワンツバメシジミを1♂採集した事を播磨蝶友会誌No.6 P.26で発表しているが、この時は沖縄本島での採集の間違いではないかと疑問視されているので、私の採集によって、入江氏の石垣島でのタイワンツバメシジミの採集発表が間違いでなかった事が裏付けされるものと考えていた。

展翅後の観察の結果はどう見ても普通のツバメシジミである。念のため、佐々木、入江両氏の同定を求め両氏の同定の結果もツバメシジミに間違いないと認定される。

迷蝶か？偶産蝶か？新鮮度から見る限りでは迷蝶とは思えない。偶産蝶なれば母蝶はいずれからどの様にして迷い込んだのであろうか。興味あるところである。

台風シーズンには南方の蝶が台風により押し流され本土の各地で採集される機会も多い様であるが本土から気流に乗ってあの小さなシジミ蝶が本土から1,000数百キロ離れた石垣島まで渡れるとも考えられないし、航空機のバンカー内にまぎれ込み侵入するとしても本土からの航空便も沖縄本島までで石垣島までの直行便はないとすれば先ず沖縄本島に侵入し偶産蝶発生その内

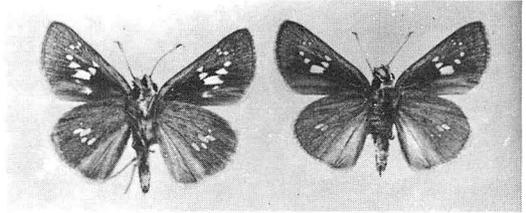
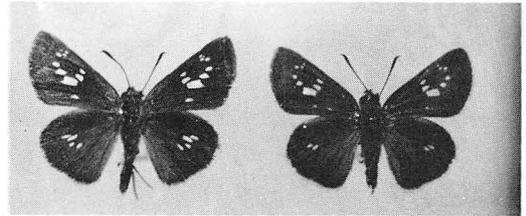
の幾頭かが再び南西航空のバンカー内にまぎれ込み石垣島に侵入し石垣空港から約20キロ離れた川平で偶産したと考えるべきだろうか？いずれにしても仮想の域を出ないものではあるが、現在の様に航空機の往來の頻繁な状態から不可能でもない様にも思われる。

Hiroshi Yagi 〒678 相生市

オオチャバネセセリ (*Polytremis pellucida*) の斑紋異常型

佐々木 薫

1983年6月25日蝶友八木弘、入江照夫の両氏と養父郡関宮町、杉ヶ沢高原へ蝶の採集行をした際、採集したもので写真でわかるように後翅表裏両面の白紋が正常な個体では4個鮮明に現れるものが2個しか現れていない斑紋異常型を採集しているので報告する。



写真上：(左：正常型表面、右：異常型表面)

写真下：(左：正常型裏面、右：異常型裏面)

採集地 兵庫県養父郡関宮町 杉ヶ沢高原

採集日 25 VI 1983

採集者 佐々木薫

最後に写真を撮って頂いた入江照夫氏に深くお礼を申し上げます。

Kaoru Sasaki 〒678 相生市

西播の蝶分布資料 (9)

岩 村 巖

わが国における比較的珍しい種類の1つであるフジミドリシジミは、その産地が交通の便の悪い山地帯である上に、食樹の関係でそれが局地的であるために、ごく最近まで、本県での分布のようすがよくわかっていなかった種類である。これまでの文献を見ても、本種の分布についてのべているものは極めて少なく、須賀ノ山における山本広一氏、守本陸也氏、吉阪道雄氏、中尾淳三氏等の記録や、扇ノ山における奥谷禎一氏、辻啓介氏等の記録があるにすぎない。

ところで、近年、採卵・飼育の技術等の進歩により冬季にも調査が可能になったのに加えて、交通網も整備され、かなりの研究者が県中央部のブナーミズナラ帯へと足を踏み入れるようになり、その分布のようすが次第に解明される方向にすすんでいることは大変喜ばしいことである。中でも、高田忠彦、井手敏晴の両氏によってまとめられた本県産20種のゼフィルス種の調査報告は、県下の分布の全容をつかむ上からも、又、今後の調査研究の指針という意味からも大変貴重なものである。

最近、西播の地においても冬季の採卵等による調査が活発におこなわれており、メスアカミドリシジミやヒサマツミドリシジミ等のゼフィルス類の分布のようすが次第に解明しつつある。今後、種類ごとにそれらの調査報告をまとめていきたいと考えているが、今回は新産地が発見されたフジミドリシジミについて報告しておきたいと思う。

(1) 西播におけるブナ、イヌブナの分布につ

フジミドリシジミの食樹であるブナは、日本の温帯林を代表する陰樹であり、同じ地域に生える陽樹のミズナラ等とともに安定した極相林を形成するメンバーの1つである。わが国における温帯林は、本州中部地方から東北・北海道西南部にかけての年平均気温が5~14℃の地域に発達し、ブナ、ミズナラ、カエデ等の喬木が優占種となった落葉広葉樹林になるのが普通である。一方、これより南の本州南部から四国、九州の大部分の年平均気温が14~16℃の地域においては、カシ、シイ等の常緑広葉樹を中心とした照葉樹林となる場合が多く、所によってはクヌギ、ケヤキ等の落葉広

葉樹林やアカマツ林が発達する場合もある。したがって兵庫県における植生も、平地~低山帯の大部分がカシ帯と呼ばれる照葉樹林、すなわち暖帯林となるはずであるが、伐採等の人為的条件によって、安定した極相林のままに残されている所はほとんどないのが現状である。

兵庫県下においてブナ・ミズナラ等の樹種がみられるようになるのは、日本海側で350m以上、瀬戸内側では750m以上の標高をもつ山地帯であるが、下限付近においては群落を形成するまでには致らない。ブナーミズナラ林としての群落を形成するためには、日本海側では700m以上、瀬戸内側では1,000mをこえる標高が必要となる。又、六甲山の一部を例外として、北緯35度以南の地域においてはブナの分布は確認されていない。現在県下においてブナの分布が確認されている所は、久斗山、三川山、小城、蘇武岳、妙見山、扇ノ山、海上、陣鉢山東斜面、須賀ノ山、床尾山、天滝(以上但馬)、篠峯、粟鹿山(以上丹波)、妙見山(東播)、音水、赤西、船越山、江浪峠、ミソギ峠(以上西播)等の地域であるが、近年の伐採につぐ伐採のために年々その分布面積は減少している。

一方、フジミドリシジミのもう1つの食樹となるイヌブナは、ブナにくらべればやや低地性の種類となりモミ等と同様に暖帯の照葉樹林と温帯の夏緑樹林の間帯をうめる代表的な植物となっている。主として瀬戸内側の500m~750mまでの山の斜面に分布しているがブナとちがって大木になることはなく、幹が根元より分枝して叢生となっている場合が多い。ブナと異なり、群落の純林となることはなく、林の中に点在して生えているのが普通である。この種類もブナと同様、近年どんどん伐採され、スギ、ヒノキ等の人工林へとかわりつつあるのが現状であり、かつての音水や赤西の渓谷の山の斜面に自生していた本種も、現在では見るかげもない状態となってしまっている。

西播地方におけるこれら両種の分布についてはまだ十分に調査されていない面も多いが、現在までに確認されているものを整理してみると次のようになる。

◎ ブナについて

- (1) 千種川水系の最上部。大通峠↔江浪峠↔ミソギ峠とむすぶ岡山県との県境の尾根一帯

(ロ) 揖保川水系に含まれる引原川最上部。戸倉⇄音水⇄赤西とむすぶ岡山県との県境の尾根の一部。

(ハ) 千種川水系に属する船越山。

◎ イヌブナについて

- (イ) 揖保川水系に属する伊沢川、梯川上流の黒尾山、梯、上ノ、奥山林道等の山の斜面一帯。
- (ロ) 揖保川水系に属する公文川上流の公文、志倉等の斜面一帯。
- (ハ) 揖保川水系と市川水系の分水嶺の千町峠付近。
- (ニ) 揖保川水系に属する林田川上流の鹿ヶ壺。
- (ホ) 市川水系に属する犬見川、小田原川上流一帯。
- (ヘ) 揖保川水系に属する引原川上流の音水、赤西の溪谷の山の斜面。

(2) 西播におけるフジミドリシジミの分布について

前述の井手、高田の両氏による分布図によれば、県下における本種の産地は18箇所が確認されている（兵庫県蝶類調査報告Ⅰ、シジミチョウ科、その1）。このうち、西播地方における産地としては坂ノ谷、道谷、赤西溪谷（以上宍粟郡波賀町）と江浪峠（宍粟郡千種町）の4箇所の記事がある。上記4箇所産地のうち千種川水系に属する江浪峠をのぞいて残り3箇所はい

ずれも揖保川水系の引原川流域に該当する地域である。同じ揖保川水系に属する一つ東の谷の公文川、倉床川等の流域からはこれまでに本種の分布の確認がなされていなかった。1982年の冬、播磨蝶友会の例会がヒサマツミドリシジミの分布調査を目的として公文川上流のモミノ木林道一帯でおこなわれたが、この時山中腹の斜面一帯にイヌブナが点在していることが確認され、合わせてフジミドリの採卵調査もおこなわれた。その結果、数は多くないが、この地に本種が生息しているのが確認された。卵はいずれも食樹の小枝や新芽付近の日裏にあたる側に1卵ずつ生みつけられており、まっすぐに伸びた高所の枝よりも、横に張り出したひこばえ等の方が生みつけられている確率は高いようである。その後の筆者の同地方における数度の分布調査によれば、斜面一帯にはかなり高い所まで広範囲にわたってイヌブナが分布しており、それにともなって本種の分布もかなりの範囲に広がっていることが確認できた。

○1983. 3.18 6卵 宍粟郡一宮町モミノ木林道（岩村）

○1983. 4.6 3卵 〃

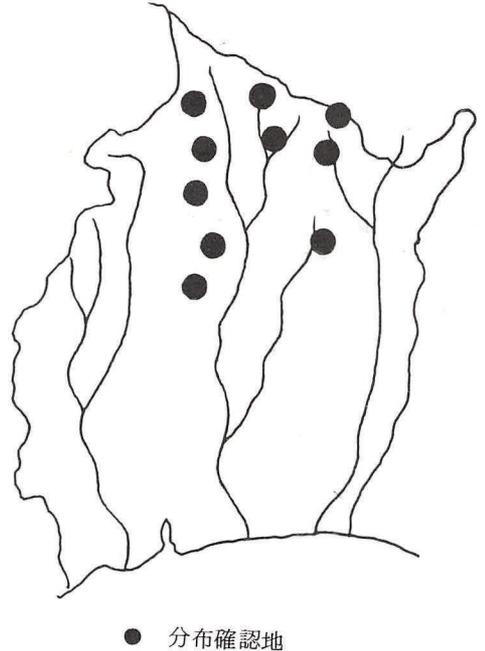
○1983. 11.23 10卵 宍粟郡一宮町モミノ木林道（岩村）

同地方におけり自然状態でのフ化は4月上旬頃には

県下のブナーミズナラ群落植生図



西播におけるイヌブナの分布



じまるらしく、1983年4月6日の調査ではすでに finished 卵殻が2卵発見されている。成虫の出現はそらく6月中旬頃であろうと思われるが確認できてない。姫路地方における屋内での飼育側等では5月中旬頃にすでに成虫が羽化している。1983年3月18採卵の6卵を例にとれば、3月26日～29日にかけて化がおこり、内5頭が蛹化し、5月15日に2♂16日1♂17日に2♀が羽化した。

一宮町に源を発するその他の揖保川水系に属する河の流域についてはイヌブナの分布が確認されているが何箇所かみついているが、本種の分布の確認は来ていない。今後の調査が望まれるところである。お、すでに分布の報告のある千種川上流の江浪峠、ソギ峠においても、本会のメンバーによる分布の再認の次のような採集報告がある。

○1982. 12. 19 6卵 宍粟郡千種町西河内ミソギ峠 (佐々木 他)

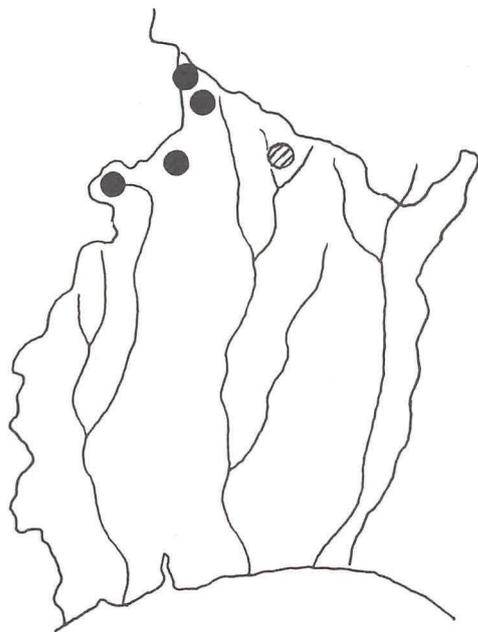
(3) おわりに

西播におけるフジミドリシジミの分布については本格的な調査がはじまったばかりであり、今後まだまだ足を踏み入れなければならない地域が多数残されている。特に一宮町の北部一帯のイヌブナの自生地調査がこれからの課題である。ブナの分布については、現在岡山県との県境付近の尾根すじ近くにしか樹林が残っておらず、その分布面積も今後予想される伐採のために減少していくことが予測されるため、ブナ帯における本種の新産地は西播においては発見される可能性は少ない。しかし、イヌブナについては、近年伐採による植林がかなりの速度で進行しているとはいえ、まだ揖保川水系に属する一宮町北部に残されている標高500～750m付近の夏緑樹林帯の中にかなりの範囲にわたって残存しているので、今後の調査によって新産地の発見される可能性はかなり高いと考えられる。今後の調査をさらにつづけたいと思っている。

—参考文献—

1. 山本 広一(1955): 但馬氷ノ山夏の蝶
(兵庫生物 Vol 3 No 1～2)
2. 吉阪 道雄(1956): 氷ノ山の蝶類
(兵庫生物 Vol 3 No 3)
3. 杉田 隆三(1966): 音水国有林の植物
(兵庫生物 Vol 5 No 2)
4. 藤原 健司(1967): 扇ノ山のブナ林について
(兵庫生物 Vol 5 No 3～4)
5. 細見 末雄(1970): 澗川山植物報告
(兵庫生物 Vol 6 No 2)
6. 建部 恵潤(1970): 兵庫県宍粟郡および近接地植物分布資料(兵庫生物 Vol 6 No 2)
(兵庫生物 Vol 6 No 2)
7. 村田 源(1970): 美方郡温泉町扇ノ山付近の植物
(兵庫生物 Vol 6 No 2)
8. 兵庫生物学会(1971): 兵庫県植物目録
(兵庫生物特別号)
9. 高田 忠彦 : 兵庫県産蝶類調査報告(I)
井手 敏晴(1978) シジミチョウ科(その1)
(MDKニュース No79)
10. 日水 隆(1958): 日本産蝶類分布表
(北隆館)
11. 神戸新聞社(1974): 兵庫探検 自然編
12. 文化庁(1973): 植生図 主要動植物地図
—兵庫県—
(国土地理協会)

西播におけるフジミドリシジミの分布



● 既産地

⊗ 新産地

- 13. 杉田 隆三(1977)：奥山国有林のモミ林
(兵庫生物 Vol 7 No 3)
- 14. 大川 徹(1977)：六甲のブナ林
(兵庫生物 Vol 7 No 3)
- 15. 環境庁(1981)：日本の重要な植物群落の分布
全国版)
- 16. 環境庁 (1981)：日本の重要な昆虫類
(近畿版)
- 17. 四手井綱英(1978)：落葉広葉樹図譜
斎藤新一郎 (共立出版)
- 18. 沼田 真(1978)：図説日本の植生
岩瀬 徹 (朝倉書店)

〒671-14
IWAO IWAMURA 姫路市

シロチョウ属 *Pieris* 2種の 食草について

広畑 政己

県下には3種のシロチョウ属が生息しているが、いずれの種もアブラナ科を食草としていることは周知の通りである。そして、モンシロチョウはキャベツやアブラナ、スジグロシロチョウはイヌガラシを食することはよく知られており、飼育や幼虫を採集された経験も多いことと思う。しかし、これらの種については普通種であるためか、これ以上詳しく調べられていないのも事実である。このたび、西播の各地で採集してきた卵を飼育をした結果、スジグロシロチョウとモンシロチョウが発生したので、その食草を次の通り報告する。

1. モンシロチョウが産卵していた食草
イヌガラシ(夢前町坂根)、クルオメ(上月町下秋里、市川町上牛尾)、カブ、アブラナ(夢前町坂根)。
2. スジグロシロチョウが産卵していた食草
ヒロハコンロンソウ(夢前町坂根、南光町船越)、オオバタネツケバナ(南光町船越)、イヌガラシ(夢前町馬頭)、ケジヤニンジン(波賀町原)、ダイコン(市川町上牛尾)。
この他にナズナ、ハクサンハタザオなどで卵を探したが発見できなかった。また、スジグロシロチョウは栽培種では発見できず、傾向としてはあまり日当りのよいところの食草からも見い出せなかった。食草の同定をお願いした頌栄短期大学の黒崎史平先生にお礼申し上げる。

Masami Hirohata 〒671-22 姫路市

木曾駒ヶ岳の蝶

苦木 隆幸

焼けつくような盛夏の太陽が輝く、7月下旬播磨蝶友会では中央アルプス一帯で採集大会を開催した。今回の目玉は、ムモンアカシジミであるが、同時にツマジロウラジャノメ等も目標の中には、入っている。

1泊2日の予定で、2台の車に分乗し、中国自動車道、名神高速道、そして中央自動車道へと、夜間の高速ドライブである。もうなじみ深くなった、恵那トンネルも、一気に通過し、駒ヶ根サービスエリアで仮眠、夜明けを待った。

今回の調査地は駒ヶ岳山麓でも主として東斜面に的をしぼり、まず標高800~1,000mで前述のツマジロウラジャノメ、ウラジャノメ、フタスジチョウ、エルタテハ等をねらった。

駒ヶ根インターを下り寺沢林道に入る。朝6時前の気温は実にさわやかで自然に親しむ者のみが味わえる、幸福感を満喫する。

朝日がまぶしい駒ヶ根楽園キャンプ場附近に車を置き、本日参加の7人でいよいよ採集開始である。黒川沿いの登山道を、歩きながら木の葉がぐれに、出て来る蝶を、ネットに入れる。終日仲間と楽しく過ごし、命の洗濯をした思いで、満足感一杯の一日であった。

ネットに入った種類は以下の通りである。

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 オナガアゲハ | 12 ヒオドシチョウ |
| 2 ミヤマカラスアゲハ | 13 クジャクチョウ |
| 3 モンキチョウ | 14 オオムラサキ |
| 4 スジグロシロチョウ | 15 ツマジロウラジャノメ |
| 5 エゾスジグロシロチョウ | 16 ウラジャノメ |
| 6 コヒヨウモン | 17 ヒメキマダラヒヤゲ |
| 7 ギンボシヒョウン | 18 クロヒカゲ |
| 8 オオミスジ | 19 クロヒカゲモドキ |
| 9 フタスジチョウ | 20 ヤマキマダラヒカゲ |
| 10 エルタテハ | 21 アサギマダラ |
| 11 シータテハ | |

この他に、クモバベニヒカゲ、ベニヒカゲを見ることができた。以上採集年月日は1983年7月30日である。

Takayuki Nigaki 〒675-15 姫路市

兵庫県におけるウスイロコノマチョウの採集記録

広畑 政己

駅の構内や商店街の中など市街地のにぎやかなところでよく採集されており、県下では阪神間での採集記録が多い。

県下における最初の記録は1937年10月のようで、神戸市外本山村（現在の東灘区本山町）にて1頭が採集されている（谷口、1938）。この報告によると、それ以前にも東灘区住吉町などで採集した標本を見たことがあると記されているが、確かな記録としては本山町の記録が最初のものである。それ以来、1960年までに4例、1980年までに10例が報告されているだけであったが、1983年にはこの年だけで4頭が採集されている。

1983年は山陰の浜田市でも9月に多数の個体が採集されたり（淀江、1983）、兵庫県から東の他県からも多くの採集記録が報告されている。

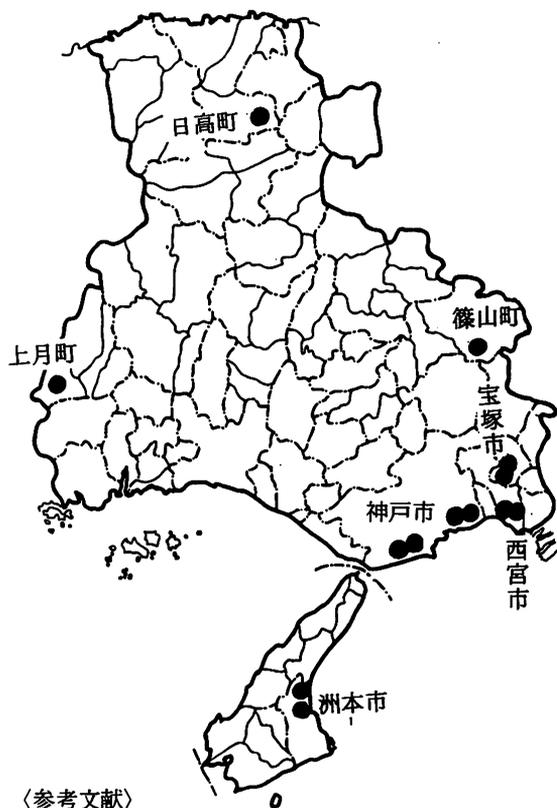
本種は奄美諸島以南に土着しているとされているが、溝上（1984）は、佐賀県では毎年同じ場所で採集されることなどから、奄美以北でも土着の可能性が充分考えられる旨の見解を述べられている。

九州にも土着をし、個体群の密度を高めながら分布をさらに拡大するとすれば、本県にも飛来する頻度も高くなるわけで、クロコノマチョウのように耐寒性があれば本県でも将来土着の可能性もでてくるわけである。今後の推移を見まもっていきたい。採集記録を御教示いただいた青山潤三氏にお礼申し上げる。

〈採集記録〉

神戸市東灘区本山町	lex	—	X	1937	谷口和義 ¹⁾
神戸市六甲登山口	lex	—	—	—	柴内俊次 ²⁾
西宮市夙川	—	—	VIII	1955	伊勢田漱二 ²⁾
宝塚市武庫川原	—	—	夏	1956	川合 勲 ²⁾
西宮市御茶屋新町	—	31	VII	1957	有田 茂 ³⁾
佐用郡上月町上秋里	1 ♂	20	VI	1971	五十嵐英二 ⁴⁾
多紀郡篠山町曾地奥	幼虫4頭	5	VIII	1973	浜・当麻 ⁵⁾
神戸市長田区	lex	—	—	—	柴内俊次 ⁵⁾
城崎郡日高町久斗	lex	24	VII	1977	山田剛士 ⁶⁾
洲本市本町	1 ♂	1	VII	1980	浅田 卓 ⁷⁾
洲本市安乎町浜	1 ♀	6	VIII	1983	前川和昭 ⁸⁾
神戸市須磨区須磨浦通	1 ♂	4	X	1983	青山潤三
宝塚市小林	1 ♀	1	VIII	1983	平野雅親 ⁹⁾
西宮市阪急西宮北口	lex	30	VIII	1983	法西定雄 ¹⁰⁾

図 ウスイロコノマチョウの採集地



〈参考文献〉

- 1) 谷口和義(1938) 神戸市産蝶類雑記(1)昆虫界 6 (55): 762
- 2) 東 正雄(1960) 六甲山系の迷蝶 兵庫の自然のじぎく文庫 神戸
- 3) 五十嵐英二(1981) ウスイロコノマ採集の思い出 きべりはむし 9(1): 30
- 4) 浜祥明・当麻信彦(1973) 能勢地方調査記録 crude (9): 1
- 5) 柴内俊次・中畔史雄(1950) 神戸虫だより 札幌昆虫同好会会報(1): 5
- 6) 山田剛士(1980) 日高町でウスイロコノマを採集 IRATSUME(4): 69
- 7) 浅田 卓(1981) コノマチョウ属2種の採集記録について Parnassius (23): 1

- 8) 前川和昭(1983) 洲本市にてウスイロコノマチョウ
採集 Parnassius (29): 14
- 9) 平野雅親(1983) 兵庫県宝塚で採集した蝶2種
月刊むし (154): 7
- 10) 法西定雄(1984) 西宮のウスイロコノマチョウ
てんとうむし (9)
- 11) 澁江賢一郎(1983) 83年島根県のウスイロコノマチョウ
すかしば (20): 44-45
- 12) 溝上誠司(1984) 佐賀県における迷蝶の記録
ちょう 7(2): 2-14
- 13) 広畑政巳(1982) 兵庫県産蝶類分布資料(2) てんとう
むし (8): 32-33
- Masami Hirohata 〒671-22 姫路市打越1343-259

ミスジチョウの幼虫と枯れ葉

近藤伸一

1982年11月28日兵庫県宍粟郡一宮町阿舎利にてモミジの枯れ葉で越冬中のミスジチョウの幼虫を採集した。自宅にある高さ1.5mのモミジの枝に採集した枯れ葉のまま結びつけたが、2日後には別の枯れ葉の葉柄を糸で固定してこの枯れ葉を座として越冬した。

1983年3月中旬モミジの芽吹きにあわせて摂食を開始し、3月28日終令となった。幼虫が摂食しているのを観察したことがないので、夜間に活動しているものと思っていた。

4月21日 18時30分にはいつものように頭部を下にして座に静止していたが、21時30分確認に行くと、やはり枯れ葉にはおらず、60cmほど離れた枝の葉をモリモリとたべていた。午前1時30分雨が降っていたので再確認に行くと元の枯れ葉にいつもの状態で静止していた。

4月23日 21時30分帰宅時に見ると、やはり枯れ葉から70cm離れた位置の葉を摂食していた。

4月26日 21時30分風が強く葉が大きくゆれていた。幼虫は枯れ葉に静止していた。

4月27日 21時30分いつものように摂食していた。

4月28日 19時雨が降っており幼虫は枯れ葉にいたが、雨もやんだので午前1時に見るとさかんに摂食していた。

以上勤めによる観察時間の制約と短期間の観察ではあったが、ミスジチョウの幼虫にとって一枚の枯れ葉がもつ重要性を再認識した。昼間は保護色で外敵から身を守り、夜間でも気象条件が悪化すると糸で固定した安全な枯れ葉で時を過ごす。幼虫は枯れ葉の付近の葉を残して離れた場所で摂食し5月1日この枯れ葉で蛹化した。

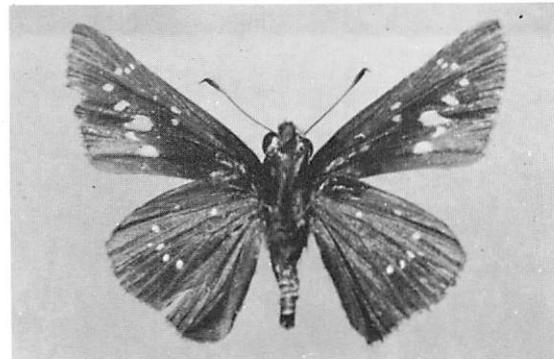
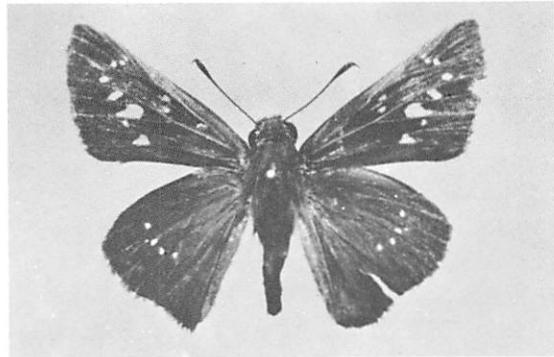
Shinichi Kondo 〒674神戸市西区岩岡町岩岡619-57

トガネチャバネセセリ (Pelopidas agna) 雌の 斑紋異常型

佐々木 薫

筆者は1982年8月7日、八重山諸島に蝶の採集行をした際に採集した、セセリチョウの中に日本産セセリチョウ科にいない斑紋の個体が採れている事に気付き調べたところ自分では、タイワンチャバネセセリによく似ているが、はっきりしたことが判らず、九州大学教授の白水隆先生に同定をお願いした結果トガリチャバネセセリの♀と同定していただきました。

写真でみるように後翅表裏にはっきりと白紋の出た個体はこれまで採集例が少ないように思いますので報告をしておきます。



- 1 最後に白水隆教授に同定をお願いしたところ、懇切丁寧な内容のお返事を早速に頂いた。心よりお礼を申しあげます。又いつも蝶の写真を撮って頂く入江照夫氏にもお礼を申しあげたい。

Kaoru Sasaki

兵庫県相生市赤坂町1丁目121の1

兵庫県南西部に於けるウラクロシジミの分布

佐々木 薫

兵庫県下に於える本種は山本広一氏によって、1937年8月10日、須賀ノ山関宮町側で採集され報告(山本広一(1955)但馬氷ノ山夏の蝶、兵庫生物、3(1~2):22-26)したのが最初とされている。

県下に於いては、山陰地方より宍粟郡千種町、一宮町および朝来郡生野町を南限として標高400~900mの山地に広く分布する。しかし山陰地方の美方郡浜坂町、城崎郡城崎町、豊岡市、出石郡出石町附近では食樹が平地でも稀ではなく、これらの地域では平地にも普通に産する。波賀町、生野町、一宮町、千種町と南限に近くなるにしたがって個体数は少なくなってくる。

県下に於ける現在までに確認された産地は、美方郡浜坂町、温泉町、美方町、村岡町、城崎郡城崎町、日高町、豊岡市、出石郡出石町、養父郡関宮町、大屋町八鹿町、養父町、朝来郡和田山町、生野町、宍粟郡波賀町、一宮町、千種町の一部と広く分布する。が、県下南西部に於ける採集記録は少なくこれまでには

- 1. 宍粟郡千種町江浪峠 1♂採集 25 IV 1966 喜多
- 2. 宍粟郡一宮町千町 2卵採集 25 III 1977 高田、井手
- 3. 宍粟郡波賀町坂ノ谷 4卵採集 10 VII 1977 高田、井手
- 4. 宍粟郡波賀町道谷 3卵採集 19 X 1977 井手
- 5. 宍粟郡一宮町百千家満 20卵採集 7 III 1982 花岡正

とまでの採集記録例の報告は5ヶ所となっていたが1982年~1983年に調査を行った結果、次の6ヶ所が新しく産地として発見出来たので調査は不完全であるが南限もかなり南下しましたので中間報告として知らせておきます。

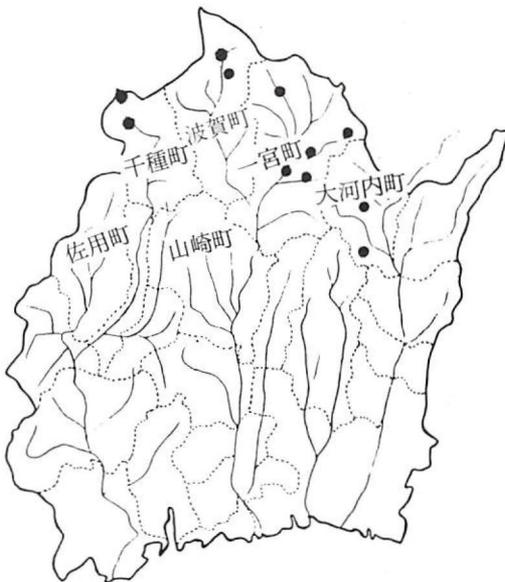
- 6. 宍粟郡一宮町草木 幼虫2頭採集 5 V 1982 佐々木薫
- 7. 宍粟郡千種町鍋ヶ谷 幼虫1頭採集 8 V 1982 入江照夫
- 8. 宍粟郡一宮町福野 幼虫1頭採集

- 9. 宍粟郡一宮町樺ノ木 3♀♀採集 20 VI 1982 佐々木薫
- 10. 神崎郡大河内町宮野 6♀♀採集 25 VI 1983 高島 明
- 11. 神崎郡大河内町横瀬 4♀♀採集 25 VI 1983 高島 明

幼虫で採集したものは全部羽化に成功したことも報告しておく。

最後にこの報文をまとめるにあたり、資料の提供や分布地の調査にご協力いただいた、広畑政巳、入江照夫、八木弘、川崎悟良、高島明の各氏に深くお礼を申しあげる。

兵庫県南西部に於けるウラクロシジミの分布概念図



〈参考文献〉

- (1) 高田忠彦、井手敏晴：兵庫県産蝶類調査報告 [1] シジミチョウ科その1
- (2) 花岡 正 : てんとうむしNo.8 ウラクロシジミの新産地

ヒサマツミドリ雌の斑紋について

1. はじめに

つい最近まで、本種はZephyrusの中では極めて珍しい種の1つで、同好者にとっては垂涎の的でもあった。しかし、食樹がウラジロガシであることが判明してからは、各地で新しい産地が発見され、今では、東は山梨県から西は九州にまで生息していることが確認されさほど珍しい種でもなくなっている。

従って、分布についての興味は徐々に薄らいではいるが、雌の斑紋については従来考えられていた以上に変化に富んでいることがわかり、近年話題をなげかけている。

本種の雌の斑紋は、川副・若林(1976)をはじめ、他の図鑑類でもA B型が大部分で、希にB型があるとされているが、中村(1978)は、島根県匹見町産の本種の雌を100頭検視した記録に静岡県水窪町産や、二町(1977)の霧島山荒襲産の記録を加え、これらの資料をもとに、本種の雌の斑紋は、中国地方以西では決して稀なものではないという見解を述べられている。そして、日本列島を南西部に行くに従ってB型の発生する頻度は高くなることも指摘されている。

因みに、B型の出現率は中村(1978)によれば、表1、2、6の通り、静岡県水窪町産では1.6%、島根県匹見町産では17.2%、霧島山荒襲産では27.7%となっている。

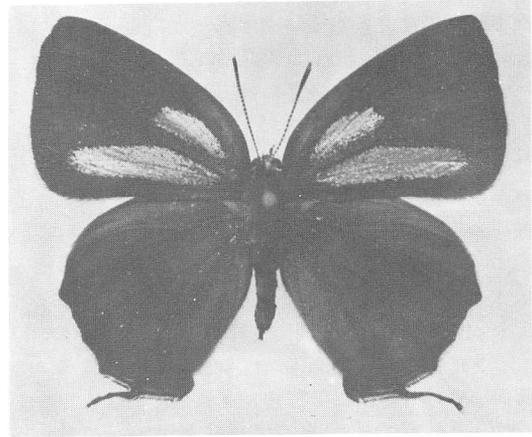
この他の記録としては、安川(1982)の京都府舞鶴市宮津市の7.4%があるが、この数値は、静岡県1.6%と島根県17.2%の約半数に当り、中村(1978)の日本列島を南西部に行くに従ってB型の発生する頻度は高くなるという説を裏付けている。

筆者は従来、近畿地方での雌の斑紋については、A B型がほぼ100%に近い状態で発生するものと思っていたので気にも止めていなかった。しかし、1982年に飼育した兵庫県一宮町の個体の中からB型が1頭羽化したことから、同地の個体や滋賀県永源寺町産の個体を当て見た結果、少ないながらB型が見られたので、本種の雌の斑紋変異の傾向をより明確化するため報告した次第である。

他の地域との比較をするために、中村(1978)と安川(1982)のデータをそのまま引用させていただいた。また二町(1977)の文献は筆者の手元にないので中村(1978)を引用している。

本稿を草するに当り、徳岡正己、黒田収、佐々木薫

広畑政己



入江照夫、木村三郎、花岡正、近藤伸一、岩村巖、竹内俊行、八木弘、石塚祺法、高島千洋の諸氏に御協力いただいた。ここに記してお礼申し上げる。

2. 雌の斑紋の分類の方法

斑紋の分類については中村(1978)に従った。すなわち、橙色斑の全く表れていない型をA0とし、以下1個表れたものをA1、2個のものをA2、3個をA3とした。また、青色斑は表れていないものをB1とし、以下B2、B3、B4と分類した。中村(1978)では、ルーペで見ても少しでも橙色、青色の鱗粉のあるものは鱗粉の存在が認められたとして各型に分類しているが、兵庫県、滋賀県のものについては肉眼にたよった。また、前翅でも左と右では相違が見られ、いずれに分類するかとまどったが、表れた程度の多い方で分類している。

3. 兵庫県産、滋賀県産の雌の斑紋

検視した個体数も少なく、発生頻度はこの通りではないかもしれないが、このたび調べた結果では、B型の発生比率は表3.5の通り、兵庫県一宮町産は77頭中2頭の2.6%となっており、滋賀県永源寺町産は88頭中1頭の1.1%となっている。この数値は同じ近畿地方にある、北部の舞鶴市宮津市産の7.4%と比較するとかなり低いものである。逆にA型の発達がよく、A2斑を例にとると、霧島山産では53.2%、匹見町産は61.7%

鶴市宮津市産では76.5%、水窪町産では63.9%となっているのに対し、一宮町産は92.2%、永源寺町産は9.9%とA斑が顕著に表れているのが目につく。青色の色彩については、紫色のもの、藍色のもの、その中間ものなどさまざまあり分類が難しいので割愛した。

図1. B型斑を比較した6地域概念図



図2. 雌の斑紋の分類

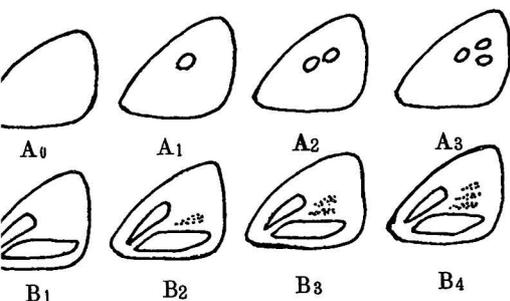


表1. 霧島山荒襲産雌の斑紋 中村(1978)

B斑/A斑	B1	B2	B3	B4	計	斑紋
A0	2	3	8	0	13	B型
A1	1	2	5	1	9	AB型
A2	2	14	9	0	25	
計	5	19	22	1	47	

※47頭中のB型の比率27.7%

表2. 島根県匹見町産雌の斑紋 中村(1978)

B斑/A斑	B1	B2	B3	B4	計	斑紋
A0	1	10	13	4	28	B型
A1	2	9	17	6	34	AB型
A2	23	25	43	9	100	
計	26	44	73	19	162	

※162頭中のB型の比率17.2%

表3. 兵庫県一宮町産雌の斑紋

B斑/A斑	B1	B2	B3	B4	計	斑紋
A0	2	0	0	0	2	B型
A1	0	3	0	0	3	AB型
A2	21	22	27	1	71	
A3	1	0	0	0	1	
計	24	25	27	1	77	

※77頭中のB型の比率2.6%

表4. 京都府舞鶴市宮津市産雌の斑紋 安川(1982)

B斑/A斑	B1	B2	B3	B4	計	斑紋
A0	5	1	0	0	6	B型
A1	6	1	1	0	8	AB型
A2	33	27	2	0	62	
A3	5	0	0	0	5	
計	49	29	3	0	81	

※81頭中のB型の比率7.4%

表5. 滋賀県永源寺町産雌の斑紋

B斑/A斑	B1	B2	B3	B4	計	斑紋
A0	0	0	1	0	1	B型
A1	0	0	3	0	3	AB型
A2	16	26	37	1	80	
A3	0	1	2	1	4	
計	16	27	43	2	88	

※61頭中のB型の比率1.6%

表6. 静岡県水窪町産雌の斑紋 中村(1978)

B斑/A斑	B1	B2	B3	B4	計	斑紋
A0	1	0	0	0	1	B型
A1	12	3	5	1	21	AB型
A2	25	4	7	3	39	
計	38	7	12	4	61	

※61頭中のB型の比率1.1%

4. 参考文献

- 1) 中村泰士(1978) ヒサマツミドリシジミ♀の斑紋変異 すかしば(10): 1-4
- 2) 安川謙二(1982) 丹後産ヒサマツミドリシジミ♀の斑紋について 舞鶴22: 3-4

Masami Hirohata 〒671-22 姫路市

兵庫県南西部におけるヒサマツミドリシジミの分布

佐々木 薫

昭和8年わが国で初めて採集された本種は、その発見地であった、鳥取市の久松山の名をヒサマツとして採用し、当時は、外国にいない新種ということと、気品のある美しさや、稀少価値から、珍品中の珍品として研究家の憧れの的であった。

その後、昭和30年代後半より各地で盛んとなった、採卵、飼育熱から、卵探しに焦点が移り、昭和40年代に入りその主な食草がブナ科のウラジロガシ、であることが判明するとともに、同好者の熱心な食草調査により、全国各地に産地発見が相次ぎ、一挙に分布が明らかになった。

兵庫県下に於いても例外でなく、今までの記録では美方郡温泉町、浜坂町、美方町、村岡町、城崎郡香住町、竹野町、城崎町、日高町、豊岡市、出石郡出石町、但東町、養父郡関宮町、大屋町、養父町、朝来郡和田山町、宍粟郡波賀町、一宮町と日本海側の低山地に広く分布し個体数も稀でない。

瀬戸内海側では標高500m以上を必要として稀種となる。垂直分布は100m~600mであるが、その産地は低地に集中する、とされ県下を南北に二分してみると圧倒的に日本海側に多く産地が発見されているため今後の課題として瀬戸内海側の宍粟郡波賀町、一宮町、千種町、山崎町、朝来郡朝来町、生野町、にはウラジロガシの自生地も多く新しい棲息地の調査が望まれている。

播磨蝶友会の結成より9年になりやっと結成当時の計画であった兵庫県下に於ける分布調査の必要種について調査する気持ちになり昨年は当蝶友会の広畑政己氏と一緒に兵庫県南西部に於けるミスジチョウの分布をひろおびNo.6の紙面をかりて報告したが、今回は県南西部に於けるヒサマツミドリシジミの新しい棲息地を調査の結果発見できたので報告する。

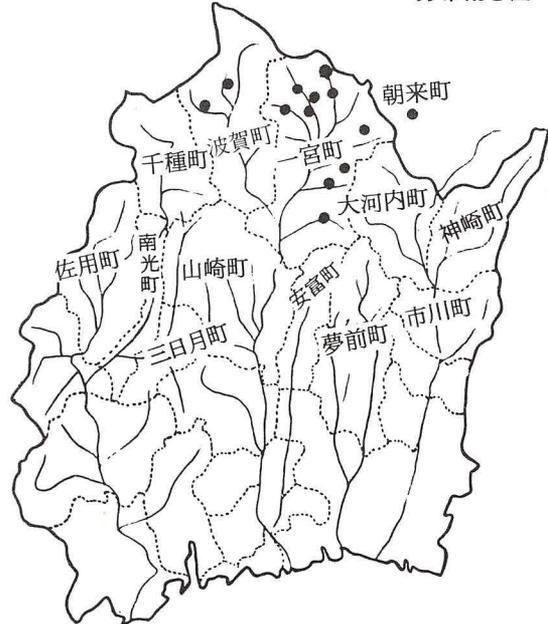
〈採集記録例〉

※宍粟郡波賀町音水	3卵採集	6	IV	1977	高田井手
※宍粟郡一宮町富士野	3卵採集	17	X	1977	高田
※宍粟郡一宮町黒原	33卵採集	18	III	1979	佐々木
宍粟郡一宮町草木	13卵採集	24	II	1977	川崎
宍粟郡一宮町福野	12卵採集	24	II	1977	川崎

宍粟郡一宮町大路	15卵採集	20	III	1982	佐々木
宍粟郡一宮町志倉	14卵採集	7	III	1982	佐々木
宍粟郡一宮町椈ノ木	28卵採集	28	III	1982	佐々木
宍粟郡一宮町阿舍利	18卵採集	4	XII	1982	佐々木
宍粟郡波賀町原	6卵採集	22	X	1983	佐々木
宍粟郡一宮町福知	2卵採集	3	XII	1983	高島
宍粟郡一宮町溝谷	20卵採集	11	XII	1983	近藤

朝来郡朝来町神子畑 6卵採集 23 IX 1982 佐々木
(神子畑は県南西部外であるが、過去の発表がなかったように思いますので報告しておく)

兵庫県南西部に於けるヒサマツミドリシジミの分布概念図



以上県下南西部9ヶ所と朝来町1ヶ所のヒサマツミドリシジミの新しい棲息地として報告しておく、又今回は発見出来なかったが、山崎町、千種町、には数回にわたって調査に入ったが採集することが出来なかったが、食樹のウラジロガシの自生地も多く更に今後の

調査が望まれる。尚採集した卵は全採集地のものとも羽化に成功したことと、羽化した早の内約10%程度の個体はB型で残りはAB型であったことも報告しておく。最後にこの報文をまとめるにあたり、資料の提供や調査に当ってご協力いただいた高島明氏と播磨蝶友会の八木弘、川崎悟良、尾崎勇、苦木隆幸、入江照夫、広畑政己、岩村巖、近藤伸一、各氏に心よりお礼を申しあげる。

参考文献

- (1) 松岡嘉之、三島寿雄：大山の蝶
- (2) 高田忠彦、井手敏晴：兵庫県産蝶類調査報告
〔1〕シジミチョウ科その1
- (3) 佐々木薫：宍粟郡一宮町にヒサマツ
ミドリシジミを求めて
ひろおびNo-5

KAORU SASAKI

〒678 兵庫県相生市

ヒメアカタテハの移動調査に ついてのお願い

近藤伸一

ヒメアカタテハの移動調査は、千葉県柏市の松井安俊、松井英子両氏が、一昨年より実施されていますが、まだ標式虫は採集されていません。この調査は多人数で実施しなければ不可能と思ひ、私も本年マーキングした成虫を放す計画をしています。採集された方はぜひ一報をお願い致します。(標式は左後翅裏面に×印、右後翅裏面は番号)

なお松井氏からの連絡によると、両氏が現在までに放された場所と標式は次の通りで、採集に出かけられた時には、ヒメアカタテハにも注意を払って下さるようお願い致します。

石垣島	I 001 ~ I 030	1983.4.23 ~ 24(左後翅裏面)
〃	I 041 ~ I 105	1983.5.9 ~ 11(右後翅裏面)
千葉県柏市	(25頭)	1982.4.20 ~ 5.12(〃)
〃	001 ~ 200	1982.6.4 ~ 18(〃)
〃	401 ~ 432	1982.9.1 ~ 7(〃)
〃	501 ~ 536	1982.10.14 ~ 11.3((〃)

Shinichi Kondo 〒674 神戸市

南光町船越でアサギマダラの越冬 幼虫を確認

広畑政己

1983年1月3日に船越にて本種の越冬幼虫6頭を確認したので報告する。幼虫の令数は定かではないが、大きさは10mm程度のものから15mm程度のものでさまざまであった。食草のキジョランは、寒さのため葉は内側に筒状に巻きこんでおり、幼虫はその中に潜んでいるので、これによって幾分寒さから守られているようである。暖かい日には摂食しているのか、新しい食痕も確認できさ。

本種はこれまでのデータから、春には低地に現われ、季節が進むにしたがってだんだん高い山にすみかを広げ、秋にはまたふたたび低地で見られることがわかっている¹⁾。また、マーキングをして、種子島で5月31日に放された個体が、46日後の7月16日に福島県の白河市で再捕獲されたり²⁾、4月26日に同じく種子島で放された個体が、27日目の5月23日に三重県の鈴鹿山脈の入道ヶ岳のふもとで再捕獲されている²⁾。これらは夏には北へ移動するのではないかということを示唆する例であるが、反対に10月の20日に鹿児島県市木町で放された個体が、こんどはそれより400kmも南の奄美大島名瀬市で12日目の11月1日に再捕獲されている²⁾。これは、秋には南に移動するのではないかということを物語っている。

このように、高地と低地を稀動する垂直移動と、北方と南方を移動する水平移動が推測できるわけであるが、もうひとつ、越冬をし、土着しているのはどのあたりになるかもはっきりしていないことの1つである。

県下において、冬に本種の幼虫が見つかったのは、この他に加美町金蔵山にて森下泰治氏によって、幼虫が3頭採集されているが、その他の記録は聞かない。しかし、県下でも寒さの厳しい内陸部で越冬幼虫が確認できたということは、食草が広く分布しておれば、広い範囲で土着できることが可能なわけである。今後さらに調査を進めていきたいので、県下に於ける採集記録など御教示いただければ幸甚である。越冬幼虫の調査に当っては、千種川グリーンライン昆虫館の内海孝一氏には何かと御教示を仰いだ。ここに記してお礼申し上げる。

〈参考文献〉

- 1) 日浦 勇(1983) アサギマダラの旅行
29(6): 7-11
- 2) 福田晴夫(1983) 蝶の長距離移動についての諸問題
やどり(111/112): 4-5

Msami Hirohata 〒671-22 姫路市

梅雨期・杉ヶ沢高原の蝶相

入江 照夫

58年6月25日、梅雨の晴れ間の一日、佐々木薫氏、八木弘氏の三人で西播磨（海内）から但馬（杉ヶ沢）へとホシチャバネセセリを求めて歩いた。例年であれば海内では目撃する事が出来るはずであるが何故か今年は姿が見えない。

杉ヶ沢高原にてもホシチャバネセセリは目撃する事が出来なかった。今年の発生は大変遅れている。仕方なく、それではと、杉ヶ沢高原の蝶相探策を行う事にした。6月末、杉ヶ沢高原の蝶相は次の様な状況であった。

シロチョウ科

- モンシロチョウ
- スズグロシロチョウ
- モンキチョウ
- キチョウ

タテハチョウ科

- ウラギンビョウモン
- ヒオドシチョウ
- コミスジ
- ウスイロビョウモンモドキ

ジャノメチョウ科

- ヒメウラナミジャノメ

シジミチョウ科

- ムラサキシジミ
- ルリシジミ
- ハヤシミドリシジミ
- ベニシジミ
- ミドリシジミ
- ウスイロオナガシジミ
- アカシジミ
- ウラクロシジミ
- ツバメシジミ

セセリチョウ科

- チャバネセセリ
- オオチャバネセセリ

- ミヤマチャバネセセリ
- ギンイチモンジセセリ

- テングチョウ科
- テングチョウ

採集種は6科、23種であった。

- 他の目撃したものに
- キアゲハ
- クロアゲハ
- モンキアゲハ
- ルリタテハ

の4種があり、7科、27種と報告する。

TERUO IRIE 〒678 相生市

編集後記

月日の経つのは早いもので、「ひろおび」No.6を発行してからもう2年にもなる。これだけ発行が遅れると普通の会であれば、なんだかんだと苦言がとんでくるはずである。しかし、当会はその心配がないので係としては気が楽である。ただ、会誌交換をお願いしている他の同好会の方々にはたいへん申し訳なく、ここにお詫びを申し上げる次第である。

No.7は発行が遅れた分だけ原稿の数も増え、内容も当初の目標通り、いろんな角度から蝶を楽しみ、その記録をとどめておくという意味でも満足のいくものであったと思う。

No.8は明年3月の発行を予定しています。会員諸氏の益々の御活躍をお祈りします。(係)

ひろおび(播磨蝶友会会誌) No.7

発行者/播磨蝶友会
 〒678 相生市 佐々木薫方
 発行年月日/1984年5月1日
 編集者/広畑政己・近藤伸一
 印刷所/石川島興業(株)写真課
 相生市陸本町16-27

ひろおび No.7 (1984)

も く じ

兵庫県におけるヒメアカタテハについて	近藤 伸一	1
ヒロオビミドリシジミを追って	川崎 悟良	14
メスアカミドリシジミの採集記録2例	広畑 政己	14
アオスジアゲハのエサキ型採集例	佐々木 薫	15
ナガサキアゲハ雌の黒化型	広畑 政己	15
兵庫県の蝶(2)揖保川水系の蝶相	尾崎 勇	16
兵庫県の蝶雑記(1)	広畑 政己	22
八重山の蝶類採集記録 その2 (1982)	佐々木 薫	23
アサギマダラの移動調査について	近藤 伸一	30
八重山の蝶感想記	八木 弘	31
石垣島のタイワンツバメシジミ	入江 照夫	34
オオウラギンヒョウモン1776卵を産卵	近藤 伸一	34
ナガサキアゲハの雌雄型	入江 照夫	35
石垣島でツバメシジミ採集	八木 弘	36
オオチャバネセセリ (<i>Polytremis pellucida</i>) の斑文異常型	佐々木 薫	36
西播の蝶分布資料(9)	岩村 巖	37
シロチョウ属 <i>Pieris</i> 2種の食草について	広畑 政己	40
木曾駒ヶ岳の蝶	苦木 隆幸	40
兵庫県におけるウスイロコノマチョウの採集記録	広畑 政己	41
ミスジチョウの幼虫と枯れ葉	近藤 伸一	42
トガネチャバネセセリ (<i>Pelopidas agna</i>) 雌の斑紋異常型	佐々木 薫	42
兵庫県南西部に於けるウラクロシジミの分布	佐々木 薫	43
ヒサマツミドリシジミ雌の斑紋について	広畑 政己	44
兵庫県南西部に於けるヒサマツミドリシジミの分布	佐々木 薫	46
ヒメアカタテハの移動調査についてお願い	近藤 伸一	47
南光町船越でアサギマダラの越冬幼虫を確認	広畑 政己	47
梅雨期・杉ヶ沢高原の蝶相	入江 照夫	48